

早稲田応用化学会報

Bulletin of The Society of Applied Chemistry
of Waseda University



No.80
November 2009

目次

早稲田応用化学会報

2009年11月

巻頭言 早稲田応用化学会の更なる発展に向けて (河村 宏)	1
竜田 邦明教授 第99回日本学士院賞授賞式 (相馬 威宣)	2
2009年度定期総会 (スナップ集)	4
2009年度定期総会 (会務・会計報告)	6
第5回評議委員会 (基盤強化委員会)	8
応用化学会 支部活動	9
中部支部：早化会／関西支部：早桜会	
トピックス	14
2009年総会講演「何よりも仕事が一番面白い」(波多野 吾紅)	
マイカンパニー 大日本印刷株式会社／凸版印刷株式会社	19
今ここで頑張っています (中尾 愛子)	21
応化教室近況	22
岡野光夫教授紫綬褒章受章 (武岡真司)／新博士紹介／奨学金選考状況 (平林 浩介)	
若手の頭脳 服部貴澄／松田 雅人	24
卒業生近況	26
同期会／同門会／加藤忠蔵名誉教授 米寿のお祝い／会員短信	
様々な分野で活躍する卒業生 (桑田 哲郎)／(川村 容子)	
学生会近況 新入生オリエンテーション2009 (塚田洋之)	39
2008年度版会員名簿の頒布／個人情報保護の基本方針と細則についての補足	
「会費自動支払制度」登録のお願い／逝去者リスト	41
編集後記 (桐村 光太郎)	42
伝統の逸品 宮坂醸造株式会社：宮坂 勇一郎	H3



■今号の表紙絵

高田馬場はまるで駅の近辺のように思われがちだが、ずっと本部キャンパスよりである。丁度グランド坂上から始まって明治通り近くまで、歩いてみると馬場のあとを辿ることが出来る。早稲田通りともう一本北に併行している路地に挟まれた長細い一角だ。路地には空襲を免れた家並みがごく最近まで残っていた。絵の煙突は安兵衛湯で、堀部安兵衛にちなむ。高田馬場の決闘の記念碑もかつては路地にたっていた。

藪野 健 (Ken Yabuno)

巻頭言

早稲田応用化学学会の更なる発展に向けて

早稲田応用化学学会会長 新9回 河村 宏



“今君は何をすべきと思うかね！”数年前80歳を悠々とクリアした尊敬する先輩にそう問いかけられた。40歳、50歳の頃はこれもしたい、あれもしたい、10年先にはこうなりたいと無我夢中で生きて来たが、会社生活を終えて、さてこれからという矢先のことだった。“70歳を過ぎて、あと10年はと思うならば、80歳の自分から振り返って今何をするかを考えるべきだ。そのことで生き甲斐が生まれ、活力が湧き出てくる、何よりも淡泊な余生から解放される”というアドバイスであった。

私は、37歳で中東に派遣され、駐在中を含めて凡そ10年の間に、第一次から三次までのオイルクライシス、バイルートの内戦、イラン・イラク戦争をオイルマンとして原油調達の最前線で体験した。40歳後半からニューヨークに駐在し、企業買収劇が数多く起ったその時期に大波の真只中に入った。その最中に戦後の財閥解体令によって三菱グループが支配権を失った三菱石油の50%株式を、テキサコから40年ぶりに買い戻す交渉を成し遂げた。帰国後の50代後半では、ユニオンカーバイドとの折半出資の電極製造会社が倒産の危機に直面しており、その立て直しに担当役員として陣頭指揮をとり、成功裡に売却することが出来た。しかし、このことで後日大きな災いに巻き込まれることになった。

中国に総代表として2年間駐在し、資本主義経済界に仲間入りしようとする中国産業の実態を目の当りにした。帰国したら、あの電極会社が独禁法違反でアメリカ司法省に訴えられた。独禁法に最も厳しいアメリカで、しかもユニオンカーバイドの統治下の会社が係る嫌疑を受け、その懲罰が親会社にまで及ぶことなどは青天の霹靂であったが、売却時の当事者であったことから会社の代表として、米国司法省と真正面から陪審員制裁判で争った。アメリカ司法省と真っ向から戦った数少ない日本企業の一人として、苦々しくも貴重な経験をした。同じ頃、併行的にテキサコから株式を買い取り、当社が筆頭株主となっていた三菱石油が存続の危機に直面していた。結局は三菱グループ全体の意向をも受けて日本石油との合併を選択肢として選び、グループを代表して陣頭指揮し実行した。最近この新日石が、新日鉱との合併を発表した。10年一日の如くの感がある。現役としての任務を終え、顧問の務めも終えて凡そ50年の宮仕えから解放された矢先に冒頭の忠言に出会った。

私の血族の平均寿命は、これまで90歳を上回っているが、健康で体力、気力ともに世の中の役に立てるのは80歳迄ぐらいであろうから、そこに至るまでに70歳から何をすべきかに思いを馳せた。商社勤務であったから製造現場や研究等とは離れたフィールドで、様々な数奇な事を経験する幸運に恵まれた。失敗談も数多くある。そのことを会社を離れた社会（早稲田大学応用化学科）で、日本の将来を担う技術者たちに、違う世界の出来事として伝えようと決意した。幸い父親（水野敏行）の水野奨学金の遺族側代表でもあったことから、学生諸君との接点も多く、これを梃にして自分の体験を伝えていこうと思っている。教員による講義や研究活動を通じての指導に加えて、違う分野における自分の経験を伝えることが、学生たちのよりよい人間形成に役立ってほしいという老婆心以外の何物でもない。

応用化学会の活性化活動も5年が経ち、今正に盛況を呈している。社業を終えた数多くの応化OBが、交流の場を提供するなど同じ目的に沿って様々な分野でボランティア活動を行っている。現役諸君は、勿論企業内の拘束があり、おいそれと会社の壁を越えた次世代への伝承は今すぐには出来ないであろう。しかし、宮仕えに身も心も使い果たして、余生は抜けがらのようになってしまう不毛な余生であって欲しくない。いずれその時がきたら冒頭の忠言を思い起こして欲しい。古いから、時代が違うからと言って行動を起こさぬ人達も多い。若い世代が我々の経験をどう評価し、どう感じ取り、それが彼らの人生にどう活かされるかは彼らの判断に任せることにして、我々は、まず行動を起こすことが先決と考える。何をすべきかは、人それぞれに異なることで、これはほんの一例に過ぎないが、“あなたは今、何をすべきとお考えですか！”

竜田邦明教授 第99回日本学士院賞授賞式

平成21年6月1日、午前10時30分から第99回日本学士院賞授賞式が天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで日本学士院にて執り行われました。

本学理工系の長い歴史のなかで初の栄誉となった受賞者、理工学術院教授竜田邦明工学博士は、ご令室を伴い授賞式典に臨まれました。

授賞式に先立ち、各受賞者（10名）が両陛下にそれぞれの研究内容やその成果を御説明し、陛下からの御質問に答えられました。

竜田邦明教授は、次ページに示すポスターと分子モデルを利用して糖質を用いる天然物の全合成と医薬品の開発についてご説明した後、五つのご下問と励ましのお言葉を受けました。全員の御説明が終わり、天皇皇后両陛下の前で授賞式が行われ、久保正彰日本学士院長から竜田邦明教授に賞状、賞牌、賞金が授与されました。



第99回日本学士院賞授賞式

授賞式の後、皇居においてお茶会が開かれ、両陛下と同じテーブルで約20分間食事(フランス料理)を共にする栄誉を与えられ、和やかな雰囲気の中で会話が続けました。

天皇陛下から長年にわたる優れた研究業績に対して「数多くの天然生理活性物質の合成一筋に研究を進められ、我が国のみならず、世界でご活躍されていることをとても嬉しく思います。これからも研究に精進して下さい」とのお言葉がありました。

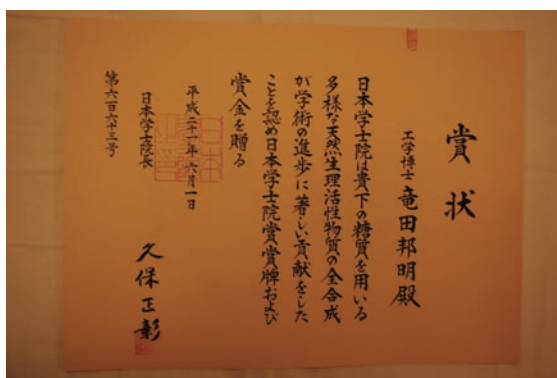
本学理工系初の日本学士院賞受賞の栄誉に浴したことを踏まえて竜田教授は、「今回の受賞を本当に嬉しく思いますが、改めて研究とは何であるかを深く考えさせられました。今後、さらに研鑽を重ねて教育・研究に精進したい。また、応用化学科にも十分その資格を有する方々が多数おられるので是非応援したい。」とコメントされました。

以下に両陛下への御説明に用いたポスターと分子モデルを背景にした竜田教授の晴れ姿と日本学士院賞賞状ならびに賞牌をお示しします。ポスターには糖質を用いて全合成を達成した四大抗生物質や約60種の天然物の構造が含まれています。

(文責：広報委員会 相馬威宣、写真提供：竜田邦明教授)



竜田邦明教授の晴れ姿



日本学士院賞賞状

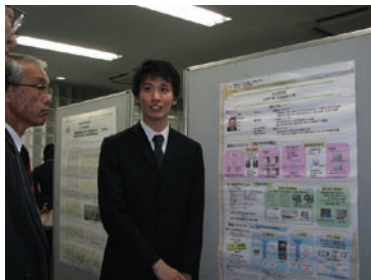


日本学士院賞賞牌

2009年度定期総会 スナップ集



■ポスター展示



■総会



■講演会



講師 (株)東芝 波多野 吾紅氏



■懇親会



09年度応用化学会給付奨学生



林 政平君、古田篤史君、斉藤ひとみさん
菅野陽将君、佐野直樹君

懇親会



2009年度定期総会 会務・会計報告

2009年度の総会は、心配した新型インフルエンザの影響も受けず 天気にも恵まれ、総勢92名の参加者が集い盛会に進められた。

5月26日(火)当日は、午後2時30分より、フォーラム2009「実践的化学知」(55号館大会議室でのポスター展示と65号館各研究室でのオープンラボ)がスタートした。引続き、午後4時30分から55号館大会議室で総会を開催し、2008年度事業報告と決算の承認、2009年度事業計画と予算案が承認された。(詳細は下記議事録参照)

今年の記念講演は、応化会初の女性による講演で、「何よりも仕事が一番面白い」の演題で波多野吾紅氏にお願いした。(株)東芝における研究職～スタッフへの仕事の歩みを「仕事は楽しく」というモットーで熱く語って頂き、来場された女子学生も興味深く聞いていたのが印象的だった。

夕刻6時30分より、昨年オープンした63号館1階のカフェテラス馬車道で懇親会がスタートした。菊地教授のご挨拶と乾杯のご発声に続き、2009年度応化会給付奨学生内定者5名の紹介が行われた。歓談の後、河村会長による生のフラメンコを総会で実現したいとの要望に応え、山田恵子スペイン舞踏団代表兼日本フラメンコ協会副会長である山田恵子氏が紹介され、スペインでは劇場でしか見られない格調高いフラメンコを約30分間堪能することが出来た。(事務局)

議事録

開催日時 2009年5月26日(火)午後4:30～5:20

開催場所 西早稲田キャンパス(旧大久保キャンパス)55号館N棟1階大会議室

出席者 92名(心配していた新型インフルエンザの影響も無く、OB 50名、先生 9名、学生 33名の参加を得られ盛会の中取り進められた)

河村会長よりこの1年を振り返り、応化会85周年記念行事があり、逢坂教授の文部科学大臣賞、竜田教授の藤原賞、日本学士院賞、東京女子医大岡野教授の紫綬褒章受賞と応化関連の内外の先生方の大活躍を大変誇りに思えることがあったこと。応化会としては、学生の認知が上ってきていること。講演会の内容も充実してきていること。前里見会長からしっかりした財政基盤で引き継ぎ、守り続けていきたいこと。中部、関西での活性化が進められてきていること。今年は奨学生5名を選定、教室会議で承認されたこと。そろそろ、将来に向けてどういう基盤を固めていくのか検討し、来年以降の運営の基盤にしていきたいこと、などの所信を述べられた。

議事：

1. 2008年度事業報告案及び決算案の審議

菅原庶務理事及び福島会計理事より各々「2008年度事業報告案」並びに「決算案」の説明がなされ、更に藤本監事から中川監事と共に、業務・財務監査を関連理事、事務局長立会いのもと行い、地方支部の残金をどう明示するか相談を受け、経理面での透明性が図られ、会計理事が前向きに取り組んでいることへの感謝を含め報告された。

特に、収支決算書では、収入1892万円、運営資金への繰入を予算通り400万円行い、次期繰越は367万円となること。貸借対照表欄外に支部での預け金を明示し、支部の予算・決算の有り様を検討させて頂き、報告する旨説明。

以上により、2008年度事業報告案及び決算案が承認された。

2. 2009年度事業計画案及び予算案の審議

菅原庶務理事及び福島会計理事より各々「2009年度事業計画案」並びに「予算案」の説明がなされた。

特に、前年度決算に較べ差の大きいところを説明され、支出1324万円 次期繰越金290万円という予算を組んだ。

以上により 2009年度事業計画案、予算案は承認された。

応用化学科主任の木野副会長より、教室側としても承認された多数の事業計画をありがたく思うとともに、他の学部・学科からは例を見ないアクティビティの高いOB会と羨ましがられていること、皆様からの寄付を頂いて応化会給付奨学生を5名を出せたことなど、総会の場を借りてお礼の言葉をいただいた。

2008年度収支決算書

収 入				支 出			
	当初予算	最終予算	決算案		当初予算	最終予算	決算案
前年度繰越金	8,063,894	8,063,894	8,063,894	会報費	2,550,000	2,550,000	2,626,618
正有志会員会費	7,300,000	7,300,000	7,194,000	名簿作成費	1,600,000	1,600,000	1,111,418
学生会員会費	1,100,000	1,100,000	1,269,000	集会費	1,700,000	1,700,000	1,715,139
利息	3,000	3,000	31,472	学生会会費	450,000	450,000	346,468
名簿発行賛助金	880,000	880,000	458,600	手数料	700,000	700,000	295,489
名簿刊行準備金取崩	1,050,000	1,050,000	0	中部支部費	233,000	233,000	184,000
雑収入	1,200,000	1,200,000	1,908,472	関西支部費	0	45,600	45,600
合 計	19,596,894	19,596,894	18,925,438	消耗品費	80,000	80,000	85,848
当期入金総額	7,566,000円			用品費	80,000	80,000	84,000
内預り金へ振替	(-)648,000円			リース代	16,800	16,800	16,800
前期預り金取り崩し	276,000円			事務費	4,047,000	4,047,000	3,223,501
当期正有志会員会費	7,194,000円			活性化活動費	487,000	487,000	452,356
当期入金総額	1,294,500円			雑費	310,000	310,000	64,054
内預り金へ振替	(-)880,500円			予備費	200,000	200,000	0
前期預り金取り崩し	855,000円			寄付金	0	1,000,000	1,000,000
当期学生会員会費	1,269,000円			運営資金へ繰入	4,000,000	4,000,000	4,000,000
				次期繰越金	3,143,094	2,097,494	3,674,147
				合 計	19,596,894	19,596,894	18,925,438

名簿発行賛助金：想定した入手希望数未達成。名簿代未入金分有り。

雑収入：先輩からのメッセージ（追加予算収入48万円）

名簿作成費：編集作業外注せず。

支部費：関西支部費追加予算で対応。

事務費：ホームページ関連費用減

雑費：出費想定より少。

寄付金：理工学部創設100周年記念事業への寄付（50万円）。

応用化学給付奨学金への寄付(50万円)

2009年度予算

収 入			支 出		
	2009年度予算案	2008年度決算		2009年度予算案	2008年度決算
前年度繰越金	3,674,147	8,063,894	会報費	2,729,000	2,626,618
正有志会員会費	7,000,000	7,194,000	名簿作成費	20,000	1,111,418
学生会員会費	1,100,000	1,269,000	集会費	1,678,500	1,715,139
利息	20,000	31,472	学生会会費	450,000	346,468
名簿発行賛助金	100,000	458,600	手数料	700,000	295,489
雑収入	1,350,000	1,908,472	中部支部費	227,500	184,000
			関西支部費	230,000	45,600
			消耗品費	110,000	85,848
			用品費	104,000	84,000
			リース代	16,800	16,800
			事務費	2,917,820	3,223,501
			委員会等活動費	757,000	452,356
			雑費	200,000	64,054
			予備費	200,000	0
			寄付金	0	1,000,000
			運営資金への繰入	0	4,000,000
			次期繰越金	2,903,527	3,674,147
合 計	13,244,147	18,925,438	合 計	13,244,147	18,925,438

繰越金：2008年度、運営資金への繰入400万円、寄付金100万円有り。

名簿発行賛助金：2009年度、新名簿発行2年目のため入手希望者減少と判断。

雑収入：企業ガイダンスHP掲載料のみ算入。

名簿作成費：2009年度、入手希望者への送料のみ計上。

中部支部費、関西支部費：支部活動本格化。

事務費：ホームページ関連費用減。

委員会活動費：委員会活動費用増。

雑費：2008年度、予算より支出大幅減。



河村宏会長 挨拶

第5回評議員会が2009年4月23日18時から理工学部62号館1階大会議室にて開催され、出席した評議員数51名、関係者を含め総員65名(懇親会のみを含む)の盛会となりました。

最初に河村会長から、
「活性化活動を開始して6年目になる。最近
は講演会も100名を超える盛況で、その他の活動も充実してきた。応化会の活発な活動は大学側も認識している。

学科の再編もあったが、先生方の活躍で応用化学学科だけ名前が残っている。また著名な賞の受賞も続いた。ここ50年間で応化の充実度が一番高い時期ではないか。

3月25日の卒業式に出席したが、女子学生の答辞で、応化会もあり大学生活をエンジョイできたという話があった。活動が学生にも浸透してきたわけで、OB会員だけでなく学生会員も一緒にやっていきたい。」
との挨拶がありました。



審議風景

次いで窪田庶務理事と福島会計理事とより、定期総会に向けた事業報告(案)と会計報告(案)の説明がありました。

引き続き、基盤委員会の活動報告が柳澤委員長より、交流委員会の活動報告が下井委員長

より、広報委員会の活動報告が相馬委員長よりありました。

また、高橋応化会事務局長より、応化会の会旗を作製したので同期会等での活用の呼びかけと住所不明者の住所確認提供要請とがなされました。

この事務局からの依頼事項に関連して、住所不明の同期生の個人情報事務局に伝えることは問題ないのかとの質問がありましたが、その情報を基に、事務局から応化会への住所等再登録するか否かの意志を直接確認し、同意を経て本登録するので問題はなく、提供者に迷惑はかけないとの説明で了承されました。



懇親会風景1



懇親会風景2

引き続き実施された懇親会は、出席者のほとんど全員と、遅れてきた会員を加えて終始和やかな雰囲気でも話も弾み、最後に木野副会長(学科主任)の締めの挨拶の後、応化会の益々の活動強化を祈念して一本締めで終了しました。

なお、一部現役の評議員から開始時刻が18:00はきついので、もう少し遅くできないかと提案がありました。

(基盤強化委員会)

現在、応用化学会では 中部支部（愛知県、三重県、岐阜県および静岡県在住の方を対象）ならびに関西支部（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県および和歌山県在住の方を対象）にて、支部活動を行っております。ここにその最近の活動の一部を紹介させていただきます。

中部支部 (早化会) 第2回支部総会と交流講演会の報告

2009年2月21日（土）、J R 名古屋駅のホテルアソシア名古屋ターミナルにて、第2回の総会と交流講演会を開催致しました。

本部より河村会長並びに静岡県より岡野静岡大学教授（第33回生）を迎え、総勢24名が参加致しました。

ジー工学教授を経て、現在中部地区の種々の環境委員会委員を担当している氏のライフワークをご披露して頂いた。

大学で禄を食んだ学識を持つ者の当然の義務として、大学教授以降の人生を精力的な委員活動に注ぎ込んでいる氏の講演は大変印象深いものであった。

支部総会



牧野支部長

牧野支部長より、「会員の連携を一層密にし、会員相互の親睦と情報の交換を深めるべく、会員皆様の知恵と工夫を活動に反映させたい」との挨拶が述べられ、続いて堤支部幹事より2008年の活動実績と2009年度活動計画並びに静岡県会員の支部会参加についての報告があった。

新たな事業展開として関心の高かった先端生命医科学研究センターについては、スライドショーで設備内容や教育・研究現場を紹介、医工融合による最先端医療技術の創造と人材育成の現場を理解して頂いた。

交流講演会

山崎事務局長よりの笠倉忠夫氏（昭和33年卒）の紹介に続き、「環境問題に携わって40年」と題する講演が行われた。

日本碍子（株）から豊橋技術科学大学エコロ

懇親会



河村会長の挨拶

懇親会の開始に先立ち河村会長の挨拶を頂いた。会長は、応化会の現状と活動内容、即ち、会員構成と財務状況、会報の頒布状況、先生方の最近の活躍と成果、OBボランティアによる講演会開催、学生の就職支援、奨学金制度創設と運用等の活発な活動を紹介され、この会の活動理念を多くの会員が理解し実践して頂くよう努力を継続するとの所信が述べられた。

この意味から中部支部会員の集まりは多く高く評価すると共に、若い会員にも声を掛けて欲しい事、並びに現行の先生方とのミーティングに外部の先生方の意見も反映させたいと考えているので協力して欲しい旨の挨拶がなされた。

引き続き、門田監事の乾杯の発声により懇親会を開始した。会が盛り上がった所で、三島邦男幹事、古山建樹理事、友野博美理事、藤井高司氏、栗野太一郎氏、大田康裕氏等から自己紹

介を兼ねたスピーチを頂いた。スピーチでは高校の先輩後輩の間柄であったとの新発見が飛び出す場面もあり和気藹々の雰囲気懇親会は進んだ。



恒例の渋谷宏之氏のエールにより校歌を斉唱し、近藤副支部長の閉会挨拶で中締めとなった。新たな応化会旗を背景に、河村会長以下全参加者の記念写真を撮り散会した。

(文責：堤正之)

【当日の参加者】

澤田祥充(旧31回)、牧野兼久(新8回)、笠倉忠夫(新8回)、近藤昌浩(新9回)、門田正彦(新9回)、三島邦男(新17回)、堤 正之(新17回)、白川 浩(新18回)、後藤栄三(新19回)、古山建樹(新20回)、友野博美(新22回)、谷口 至(新22回)、木内一壽(新24回)、山崎隆史(新25回)、伊藤 理(新26回)、名塚達雄(新26回)、岡野泰則(新33回)、上宮成之(新35回)、藤井高司(新36回)、小島大蔵(新38回)、栗野太一郎(新38回)、大高康裕(新41回)、渋谷宏之(新50回)

中部支部 (早化会)第3回中部支部交流講演会報告

7月17日(金)に第3回中部支部交流講演会が開催されました。今回より静岡会員も活動に加わって頂く事になり、早速、静岡大学須藤教授に講演をお願い致しました。講演参加者は総勢22名、内15名の方が現役会員であり講演内容に対する関心の高さが窺われました。山崎事務局長による講師紹介に続き、須藤教授による講演が始まりました。

演題:『燃料電池開発の最前線と未来社会』



講演される須藤教授

- 講師:須藤 雅夫氏(工学博士)
 - ・1972年応用化学科卒(城塚研)
 - ・1978年博士課程終了
 - ・1982年静岡大学工学部化学工学科へ
 - ・現在、静岡大学工学部物質工学科教授

- 日時:2009年7月17日(金)
16:40~18:00

- 場所:名古屋ダイヤビル271号館

講演は、須藤教授が燃料電池の開発研究に取り組んだ背景から始まり、燃料電池の歴史、燃料電池の種類と応用開発状況、燃料電池の原理と要求される要素技術群とその課題、及び家庭用分散型エネルギーとして実用化されているコジ

エネ「エネ・ファーム」の普及状況等燃料電池の多岐にわたる開発最前線を理解し易く説明して頂きました。

須藤教授は、「燃料電池は使いたい時に必要なだけ使えるという大変便利なエネルギー媒体であるので、水素を何処からどの様に持って来るか工夫する必要はあるものの、次世代の分散型エネルギーの主力になるだろう」と述べられ講演を終えられた。

燃料電池の普及は遠い未来の事のように思っていました、意外にも直ぐ手に届く所まで来ているんだという驚きと、今後の開発に大きな期待が膨らむ有意義な講演会でした。

懇親会

引き続き名古屋ダイヤビル1号館の喫茶「サンデイヤ」に場所を移し、須藤教授を中心に懇親会を開催した。

牧野支部長の挨拶と乾杯に引き続き懇親会がスタート。賑やかな懇談が始り、談笑の輪が幾つも出来、会場は時間の経過も忘れるほど盛況であった。最後に全員の記念写真を撮り散会した。

(文責：堤正之)



【参加者名一敬称略】

須藤雅夫	新22回生(S47卒)	澤田祥充	旧31回生(S25卒)
牧野兼久	新8回生(S33卒)	近藤昌浩	新9回生(S34卒)
門田正彦	新9回生(S34卒)	堤 正之	新17回生(S42卒)
白川 浩	新18回生(S43卒)	後藤栄三	新19回生(S44卒)
小林俊夫	新19回生(S44卒)	古山建樹	新20回生(S45卒)
谷口 至	新22回生(S47卒)	木内一壽	新24回生(S49卒)
山崎健史	新25回生(S50卒)	越島一郎	新26回生(S51卒)
岡野泰則	新33回生(S58卒)	上宮成之	新35回生(S60卒)
藤井高司	新36回生(S61卒)	小島大蔵	新38回生(S63卒)
新村多加也	新39回生(H1卒)	加藤昌史	新41回生(H3卒)
大高康裕	新41回生(H3卒)	鵜飼健司	新44回生(H6卒)
渋谷宏行	新50回生(H12卒)		

関西支部 (早桜会) 総会並びに懇親会の開催

2009年4月17日(金)大阪弥生会館で、応化会関西支部総会と懇親会が開催されました。これまで半世紀近くの長きに亘り早桜会と称して関西地区在住の応化会会員の親睦活動を行ってききましたが、このたび正式に会則、役員も定めて関西支部として再出発することになりました。

総会は田中航次氏の司会で始まり、世話役会で議論して提案された関西支部会則が披露され出席者全員により承認されました。支部長として井上征四郎氏が選任され、以後は井上氏が議長として総会を進行し、役員人事、2008年度の活動報告と会計報告、2009年度の活動計画と予算が承認されました。今後は次の諸氏が役員として関西支部の諸活動を進めてまいります。

支部長(早桜会会長)：井上征四郎(1962年卒)

副支部長：堀川 義晃(1962年卒)

監事：市橋 宏(1967年卒)

事務局長兼会計：田中 航次(1967年卒)

理事：津田 實(1957年卒)

篠崎 匡巳(1980年卒)

斎藤 幸一(1983年卒)

脇田 克也(1986年卒)

中島 隆行(1993年卒)

当日は応化会本部から平林浩介副会長のご出席を賜り、平林副会長から最近数年間の応化会活動、特に活性化委員会の活動とその目的とするところを熱情込めてお話いただきました。これから支部活動も積極的に支援していくので関西支部も大いに活性化して欲しいと期待を表明されました。

ついで、津田理事の司会で懇親会に移りました。最初に、これまで20年間早桜会の会長を務められた長谷川吉弘氏(1970年卒)にご挨拶を頂き、川口史郎氏(1949年卒)のご発声で乾杯して和気藹々と歓談が始まりました。この日の出席者22名は卒業年次順に用意された3つの丸テーブルを囲んで着席して、それぞれ、自己紹介、近況の紹介や学生時代の思い出話で盛り上がりました。

最後に、山添氏の指揮のもと全員で校歌「都の西北」を斉唱して、堀川氏の音頭による早桜会発展を願うエールで締めくくりました。

2009年度は本総会をスタートに関西支部会員が話題を提供して進める懇話会を2回、講演会を1回計画しております。肩肘張らないざっくばらんの懇談で会員相互の懇親を深め、仕事や遊びのヒントを見つけるような機会にしたいと願っています。支部の行事は応化会ホームページに予め掲載しますので、奮ってのご参加をお願いします。(市橋記)





参加会員：

平林浩介(応化会副会長)、川口史郎('49)、瀧根正道('59)、津田 實('59)、太田憲助('69)、堀川義晃('62)、井上征四郎('69)、田中航次('67)、辻 秀興('67)、岩本皓夫('67)、市橋 宏('67)、長谷川吉弘('70)、山添匡己('72)、篠崎勝巳('89)、志摩憲一郎('80)、斎藤幸一('83)、日野 純('84)、和田昭英('84)、脇田克也('86)、中野哲也('87)、中島隆行('93)、高島圭介('98) 以上

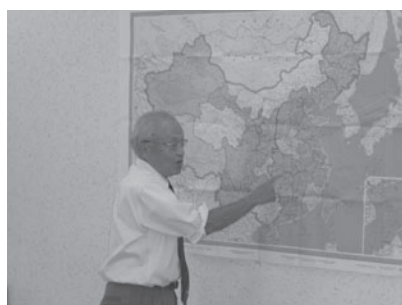
関西支部 (早桜会)2009年度第1回懇話会結果報告

2009年7月11日(土)14:00~16:00にかけて、大阪の堂島にある中央電気倶楽部で本年度関西支部第1回懇話会が開催されました。

講師は津田 實('57卒)氏で"中国貿易40年—よもやま話"と題して熱弁を揮われました。

氏は1960年に蝶理に入社され、中国で文革盛んな1968年に初めて中国に渡航以来、ほぼ毎年、中国に出張して、化学品の調達、プラント輸出業務を担当して25年。その後ミヤコシ社、KITANO社へ入社し、会社は変わったが、中国との貿易業務を継続担当して中国と多面的にかかわり通算40年というキャリア。

1949年の中華人民共和国建国以来の中国現代史について、分り易く、解説されました。



初渡航時は商談の前に毛語録の勉強をさせられたりしたが、1970年代(毛沢東)当時、中国は飢餓輸出の時代で商売は比較的楽にできた。しかし、反面内地のメーカーからいろいろ文句をつけられ苦勞もした。

1980年代(鄧小平)に入ると自力更生の時代になり、積極的な生産設備、技術輸入を図ることになる。氏はナイロン66(タイヤコード設備)、ラジカセ製造設備、イオン交膜法カセイソーダ設備など手がけた。当時はまだソ連式の製造方法がのさばり、ものづくりは非効率で未熟であった。また、香港、マカオ、シンガポール華僑が優遇された時代である。

1990年代(江沢民)になると台湾、韓国、日本からの外資導入が盛んとなり、浦東開発が発表になり、各種レベルの経済開発区が続々出現した。日本の中小企業も多数進出したが、結果は成功しているもの、失敗に終わったものいろいろである。2000年代(胡錦濤)にはり、WTOに加盟し、欧米諸国からの投資が本格化し、高度経済成長が成し遂げられた。

1978年の鄧小平による改革解放後、中国共産党はイデオロギーから経済重視に変身した。国有企業の体質改善や土地を中心とした国有財産の開放(市場化、私有化)は党と政府役人によって進められた。その結果、急激な経済発展と共に、お金持ち(富豪や中産階級)が続出。これらのお金持ちには共産党幹部の子弟や、情報を手でできる立場にいた関係者が圧倒的に多い。これらの人々はなんらかの形で一党独裁の恩恵を受けており、いまや党の強力な支持層となっている。

次の2010年代(習近平、李克強)の新指導部は自由、平等、人権といった概念を単なる概念と

だけでなく、生活実感として体得している世代である。民主法治、公正正義、誠実友愛、安定秩序、自然調和など、革命や武力闘争とは無縁の理想社会(和諧社会)をめざすことになろう。天安門事件、ソ連の解体、東欧の民主化を反面教師とし、北京オリンピックで自信を深め、中国共産党はマルクスレーニン主義を党是とする政党から実質的に伝統文化を大きなよりどころとする政党に変わろうとしていると思わ

れる。今後の施政に注目される。このしたたかな中国とわれわれはいかに付き合うか重要な課題である。

中国の複雑怪奇な歴史を簡明に解き明かしてくれ、大変参考となる講演でありました。終了後、質疑応答が活発におこなわれましたが、時間がたらず、場所を移し、居酒屋でビールを飲みながらの更なるホットな議論で、楽しく勉強になった半日となりました。(井上記)



当日の参加者

津田 實(57)、井上征四郎(62)、堀川義晃(62)、市橋 宏(67)、田中航次(67)、辻 秀興(67)、篠崎匡巳(80)、和田昭英(84)、脇田克也(86)、中野哲也(87)の10名



「何よりも仕事が一番面白い」

波多野 吾紅

(株)東芝 広告部部長代理（新制35回卒）



ご紹介いただいたように趣味も多く、いろいろと遊んでいる私ですが、それでも仕事ほど面白いことはないと思います。私がそう思うに至った「仕事の面白さ」について現在までの経験を基にこれからお話したいと思います。

【早稲田大学 応用化学科 平田研究室】

学生時代は、平田研究室の移動班で異相流体界面における移動現象の解明という研究をしておりました。移動速度論というのは基礎的な学問で、ちょうど応用分野を探している時期でした。単結晶製造時の対流問題に、平田研究室の理論が当てはまるのではないかということになり、卒業論文の中で検証しました。修士論文の時には、その理論が現場で役に立つのかどうかを確かめたくて「もしもし……私、早稲田大学平田研究室の波多野と申します。先生の論文を読みまして、興味を持ちましてお電話させていただきました。一度お目にかかっていたかどうかは出来ないでしょうか？」と直接研究者に電話し、また、学会では、論文の別刷りをもって、本当に役に立つと思われますか？と訊いて歩く、研究室の営業みたいなことをしていました。

今は「就活」とか言っておりますが、当時はのんびりしたものでした。先生の紹介でどこかに入れば良いというような感じで、私自身も何も調べもしないでマスコミとかいいなと漠然と思っていました。当時「なるほどザワールド」という番組があったのですが、司会の楠田枝里子さんが理系ということで、理系で文系就職もありかなくらいの軽い気持ちでした。TBSや日経マグロウヒルを受験し、日経マグロウヒルは二次面接までたどり着いたりしたのですが、今思えば自分でどこまで本気だったかはわからない状況です。

そんなあるとき、修士論文の関係で名刺交換

をさせていただいた「光技術共同研究所」に向向していた東芝の方から、「ところで君就職は？」と訊かれたのです。M2の8月の半ば頃のことでした。「メーカーに就職する気なんて全くないですけど。」とお断りしたのですが、「まあ、騙されたと思ってとにかく1回見学に来てくれ。」と懇願されました。実際に見学に行ってみたら、素晴らしい方ばかりで断ることが出来なくなってしまい、東芝の総合研究所に内定しました。あとからよくよく話を聞くと、男女雇用機会均等法元年で、女性修士はのどから手が出るほど欲しかったのですね。……本当に騙したのか……というところではあったのですが、今でも続いているので、出会いを大切にしたのは間違っていなかったと思っています。

【総合研究所 電子部品研究所】

研究者として入社し、青色半導体レーザ用のGa_Nの結晶成長がテーマでした。今であればGa_Nは皆さんご存知ですが、当時は青色の光というのは研究者の夢で「今世紀中には光らない」と言われていました。当時のチームリーダーが「できたらすごい特性が出る」という材料にチャレンジしなければ研究ではないという方で、そんなゲテモノ研究してどうするの？みたいに周囲から白い目で見られながら研究していました。そんなときに中村修二さんのグループが光ってしまったのです。そうしたら急に人が群がってきましたが、私は逆にさめてしまいました。まあ、冷める前に特許を書いていたにもかかわらず、全くものにならなかったのです。

大学の研究室のような雰囲気の研究所で、研究者同士が目を輝かせて議論をする日常でした。そんなとき英会話の先生に「どうして一番苦手なことで勝負をしようとしているの？」と訊かれたのです。言われて気づいたのは、皆と

私は目線が違うなということです。皆は現象をみて「あーだ、こーだ」言っているけど、私はそうやっているあなたたちが面白い！って。そこで、「モノ」ではなく「人」を扱うような仕事をさせて欲しいと希望して、研究所の企画担当に異動することになりました。

【研究開発センター 企画担当】

1997年に東芝技術展があり、部品材料分野の幹事として、一般向けのテーマ映像を制作していました。当時、一緒に仕事していた先輩があまりにも偉大だったので、サポートをするというスタンスでした。その先輩がちょうど出張中に、リーダーから電話がかかってきたのです。「君、今何をやっているの？」「例の映像が……なかなか上手いかなくて……。」「何を言っているんだ。それは君の仕事だよ！」「一般向けの映像を作っているんだろ。だったら彼よりも君のほうが得意なはずだ。」と言われて「はっ」としました。「目から鱗」と言いますが本当に鱗が落ちるみたいに視界が「パーッ」と開けました。そこから自分が主体的になって意見をしっかり言い、クリエイターの方々と議論を重ねてわかりやすい映像といわれるものを作ることが出来ました。会社に入って初めて会社の役に立てたかなと心から思った一件でした。それからは、自分の視点というのは研究所には貴重なものかもしれないと自覚し、主体的に物事に取り組めるようになりました。研究所の採用向けのホームページ、パンフレットやPR-DVDの制作、社内展示会の事務局などの広報関連と、風土作り、講演会の開催、研究者に向けてのプレゼンテーション研修などの教育関連の仕事をしていました。

【営業企画室 戦略企画担当】

そんなとき営業企画室に来てみないかといわれ、面白そうなので異動しました。営業企画室でも研究所にいたときと同じように何か私が役に立てることはないかなといろいろな提案をしました。でも、なかなか受け入れてもらえず、研究所と営業部門との文化の違いにショックを感じていました。

そんな中、VIP向けに技術情報を伝えるプレゼンテーションルームを作るという話が持ち上がり、一生懸命企画していたのですが、ちょう

どITバブルがはじけて「凍結」ということになり、氷は溶けないまま今に至っている状況です。企画がよくても社会の状況や会社の事情が合わなければ実行できず、現実の厳しさを実感しました。

【営業企画室 戦略企画担当、総合営業部マーケティング専任PJチーム兼務】

総合営業部の仕事も兼務することになり、研究者と一緒にお客様のところに伺いました。研究テーマの事業化を目指してキーマンと直接お話をする……これは非常に貴重な体験でした。ある分野の専門家は、非常に話が面白く、想定外の見地からの指摘があります。プロの方と直接話をして考えていくことで今までにない何かを作り出すことが出来るのではないかと実感しました。

また、研究所とは文化が全く違います。まさに体育会系で野球部やラグビー部出身という方も大勢います。そのときの部長は、野球部出身で「俺は監督だ。選手は君たちだから君たちがバッターボックスに立つしかないんだ。そのときにバットを振らなければヒットは出ない。でも、どんな強打者でも3割3分3厘。3回に一回しか当たらない。それでいいんだ。だから思い切ってバットを振ってこい。」と言われたのには大変感動しました。また、『Collaboration for Tomorrow』というお客様向けの展示会を企画したケースでは、その上司が社長のところに私たちを連れてゆき、「こいつらが考えている面白いことがあるのでとにかく聞いてくれ。」と直談判し、具現化出来たことも貴重な経験で、チームのモチベーションを高める一つの方策を学びました。

本社にいて研究所を振り返りますと、料理を作らねばならないのに一生懸命包丁を磨いていたり、変な形の人参を作っていたり……そういうところはもったいないと思ひまして、もう1回研究所に戻してもらいました。

【研究開発センター 企画担当・勤労担当兼務】

研究所では、ビジョンに向かって皆が考えることが大切であると考え、所長が当時掲げていた『Human Centric Technology』のプロモーションを徹底的にやりました。「人と社会に真に価値あるものを作る『Human Centric

Technology』をビジョンにして「ヒューマンセントリックテクノロジー君」というキャラクターを作り、研究所の展示会にも活用しました。パンフレットの形自体もヒューマンセントリックになるようにと変形パンフも作りました。

展示会のコンセプトの重要性が認識されたのは、2006年のIFAベルリンショーに出席された西田社長の「このブースからは戦う姿勢が感じられない」とのコメントでした。当時の展示会は、カンパニーごとにレイアウトされ、商品のブランドごとにコーナーが設けられ、イメージカラーも違えば、キャラクターも違うし、表現方法も違うといった具合でブースの中にいろいろなものが混在する形でした。きちんとしたコンセプトとそれに従ったブース作りが必要ということで、コンセプト開発WGというものが2006年にできて、メンバーとしてアサインされ、「コンセプトが重要」と勝手なことを言っていました。

【広告部 展博担当】

そんなときに本社広告部から声がかかって展示会担当に異動することになり、その勝手に言っていた「展示会のコンセプト作り」が全て自分に降りかかってくることになってしまいました。

まず、一年目は目標を立てました。

「統一コンセプトの確立」「運営体制の強化と戦略的な出展商品の選定」「ブースデザインの変更と他社をリードする演出技法の駆使」、1番目に関しては「Digital Life Innovation」というコンセプトを作り、人が機器を意識することなくしたいことができることと定義しました。2番目に関しては、技術WGというカンパニー横断のWGを作りコンセプトの内容を議論して、「Digital Life Innovation」の中身を考えました。また、ブースデザインに関しては、TOSHIBA Leading Innovationというタグラインのカラーバランスを保ちつつモザイクに変化していくモザイクパターンを多用することにより、東芝ブースの特徴を訴求しました。

ここでいう主要展示会とは、IFA（ベルリンショー）とCEATEC、CES（ラスベガスのCESショー）です。その中で統一コンセプトとして「Digital Life Innovation」を展開しました。

IFAではまず、コンセプトステージを作りました。アカペラシンガーを呼んで、一人はTV、一人はDVD、もう一人はPCで、一人ずつ歌っても素敵ですが3人がハーモナイズするとよりすばらしくなることで、ネットワーク技術を表現しました。さらに、モザイクパターンをはじめて採用しました。CEATECでは、デジタル・メディア・マジシャンのマルコ・テンペストさんが手を掲げる……それをハンドジェスチャー・ユーザインタフェースという技術にかけて表現するというステージを作りました。CESでは英語でマルコさん自身がしゃべりながらパフォーマンスをするという、よりインパクトのあるステージが作れました。

1年目は、コンセプトコーナーは作れても、カンパニーごとの展示コーナーというものは変えることができませんでした。前面はコンセプトで括った展示になっていても、裏に回るとTVはTV、PCはPCとバラバラでそれぞれが異なるメッセージを掲げており、全体としての強みは伝わりませんでした。また、東芝のデジタルライフというものはどういうものなのかを示すまでには至りませんでした。

2年目は、「Digital Life Innovation」の中身を明確にして、ビジョンをつくるために検討会を行いました。六本木ヒルズの会議室に各カンパニーのキーマンが集まり朝の10時から夜の8時まで専門のファシリテーターを雇い、アロマの香りが流れ、おいしいコーヒー、お菓子、お水や酸素ボンベまでが完備された非日常的な空間で、普段とは全く違った気持ちで終日議論しました。時の経つのを忘れるくらいの充実した一日でした。

その結果を纏めたビジョンは、「全世界・万物が共生し、その中で全ての個人が、一人一人の「志向性」に即して、ストレスなく、価値ある「体験」を拡大し、享受できる未来を創る。」となりました。このビジョンを表現した「コンセプト映像」は、デジタルプロダクツグループの「高画質」「モバイル&ストレージ」「デジタルホーム」という3つの戦略を、「自然」「技術」「シーン」という3つのパートで描きました。この映像を展示会のメインステージで流し、その後に説明を加えるパフォーマンスを企画しました。

2年目は、ビジョンとそれを表現した映像を

作ること、社内の説得ができるようになり、ゾーニングまで根本的に変えることができました。メインステージでも大きな進化があり、映像と実際のデモを組み合わせたアピールをしました。1年目は製品に採用された技術しか使えなかったのですが、2年目は戦略を示すことが重要であることを偉い方々に納得してもらい、実際の製品になっていないものをモックアップを使って擬似的にデモすることの許可を得ました。CEATECの高画質コーナーでは、真ん中がTV、左側がDVD、右側がPCで間にモデルが立ち、複数のカテゴリーの製品を一緒に語るといのは東芝ブースではそれまでありえなかったことで、画期的と言われました。

ナノテク展等の専門展示会では、技術をしっかり見せることが重要なので、新しい展示の形を考えました。技術の場合には電子顕微鏡の写真がメインのアイテムということもあるし、CGで動作を示すことが重要であったりします。そのときにパネルの中の図面というエリアに小さく押し込められてしまうと、本当に見せたいものが見えなくなってしまう。ですから、テーマに応じて、本当に見せたいものをオーダーメイドで壁面に展開しました。また、それぞれのテーマにキャッチフレーズと技術の特徴を単純化したアイコンを作りました。例えば、「大規模水素電力貯蔵システム」という技術では、「水素で貯めてかしこく使う」というキャッチフレーズと貯金箱のアイコンを作り、一般の人にもわかりやすく技術を表現することも試みました。

【広告部 国内広告担当】

2009年4月からは、企業広告・BtoB広告チームの中で、環境広告と原子力広告を担当することになりました。環境と原子力というのは実は学生時代の専門に非常に近くて、環境は、JEMAの女性による環境フォーラムを主宰していたこともあり、環境コミュニケーションも試行していました。原子力についても前回の旗野先生の講演会を拝聴しましたし、身の回りに原子力関係の知り合いが社内外とも非常に多く、お役に立てるかなと思っています（原子力広告は ⇒ <http://www.toshiba.co.jp/nuclearenergy/topics/image/20090714.pdf>）。

東芝の環境広告は、「星の王子さま」をつか

って、「この星のエネルギーとエコロジーのために」というキャンペーンを行っており、今年で3年目になります。6月から星の王子さまを使った新シリーズがスタートします。6月は環境月間で、6月5日は環境の日ということもあり、「王子さま」の新しいビジュアルを使い、面白い表現ができたのではないかなと思っていますので「乞うご期待！」です

（「星の王子さま」の環境広告は

⇒ <http://www.toshiba.co.jp/env/prince/>）。

【まとめ】

「何でも受けてみる」「とにかくやってみる」。思い通りに進む仕事などないと思います。やればできると最初からわかっている仕事なんてつまらないです。できない理由をいうのはすごく簡単だと思いますし、文句ばかり言っても一歩も進みません。なので、できる道筋というのを自分で描いていくことが大切であると思います。あきらめずに進めることで、あるとき急に思いがけないところから道が開けます。誰かに出会ったりとか、TVで何かを見たりとか、ふと道を歩いているときに、どこからか急にサーッと道が開ける瞬間というのがあります。そんな時には、仕事をやっていて良かったなと思います。

「自分なりの付加価値をつける」好きこそものの上手なれということで、仕事の中に面白味を見つけていくことが早道であると思います。楽しみながらやれると仕事自体が楽しいし、一生懸命になれます。そうはいつでも自分なりといっていきなり持論を展開しても誰にも受け入れてもらえません。小さなことでもいいから実績を少しずつ少しずつ積み上げていくことで理解をされて、だんだんとやりたい仕事に向こうから歩いてくるようになります。

「出会いとコミュニケーション」はとても大切です。人でも仕事でも新しい出会いというのはチャンスであると思います。チャンスの神様の前髪をつかむということが大切であると思います。また、異分野に興味を持つことや異分野の方とのコミュニケーションは非常に重要であると思います。それぞれの分野のプロが集まって、自分の分野、自分の持論を議論し展開しあってそれがひとつになったときに創造的な仕事になると思います。なにか山が越えられないと

きとか、プロの方の話を聴くことで目の前が開けた経験があります。

偉そうに話してきましたが、全てがうまくいった訳ではありません。「リーダーシップ」には非常に興味があります。物事を進めていくときに、どういう風に進めていけば前に進むのかということには非常に興味があります。ただ、「マネジメント」には全く興味がないです。「管理」という文字がつくと全部だめです。スケジュール管理がだめ、予算管理がだめ、ウン千万の計算を間違えたりとか……失敗は数え切れません。上司に「君は本当にいい仕事をするけれども、本当に"ポカ"もするよね」って言われた

こともあります。

「おいしいもの」ならいくらでも食べますが、そうでないものは全く食べません。清濁併せ呑むということができません。嫌なものは嫌。なので、いろいろなところで軋轢を生みます。いわゆる「サラリーマン」にはなれず、いろんな問題をおこします。

「気は強い」が「身体は弱い」です。無理しては身体を壊すの繰り返しで、去年のCEATECでも本当に一人で何から何までしまして、終わったら目が回ってしまい、過労と診断されました。こんな私ですが、今後ともなにとぞよろしくお願いいたします。

ご清聴ありがとうございました。

2009年度定期総会 スナップ集(つづき)



マイカンパニー

■大日本印刷株式会社

「DNPグループは、21世紀の知的に活性化された豊かで創発的な社会に貢献します。」

所在地：東京都新宿区(本社)

売上高：1兆5,848億円(連結、2009年3月期)

社員数：40,317名(連結、2009年3月末)

DNP大日本印刷は1876年、日本で最初の本格的な印刷会社として誕生しました。

1950年代からは、「拡印刷」を基本ポリシーに、印刷技術を応用・発展させ、包装材や建材、エレクトロニクス関連部材や情報記録材など、人々の暮らしになくてはならない製品やサービスを生み出してきました。

そしてDNPが持つ技術とノウハウを統合して、人々の夢を実現する製品やサービスとして具体化し、より豊かな暮らしやより良いコミュニケーションを提供する「情報コミュニケーション産業」へとその姿を変えてきました。

2001年、さらに一步進めた21世紀への取り組みを始めました。そのコンセプトワードは「P&IソリューションDNP」。PはPrinting Technology、IはInformation Technologyを表しています。21世紀のDNPは、永年培ってきた印刷技術と最新の情報技術を融合させ、さまざまな産業の課題を解決してきた知識やノウハウを活かして、21世紀の創発的な社会に対して新しい価値を生み出すソリューションを提供していきます。

DNPの印刷技術が支える人々の暮らし

日本で初めてインスタントラーメンが誕生したのは1958年、袋入りの手軽さもあり瞬く間に普及しました。これを支えたのもDNPで、個別包装化の流れに対応して開発した軟包装材が使われていました。それ以後も開発した製品は、紙器、ラミネートチューブ、レトルトパウチ、ペットボトルなど、現在、あらゆる商品の包装材として利用されています。

生活空間を構成する素材や部材を「住空間マテリアル」と呼んでいますが、ここにもDNPの製品が使われています。壁材、床材、天井材などの内装材、室内ドア、キッチン、さらには家電製品や電車、自動車の内装にいたるまで、幅広く利用

されています。

この他にもデジタルカメラや写真シールのプリントに使われる材料や、液晶ディスプレイを見やすくする製品、目に見えないところでは液晶ディスプレイ用カラーフィルターや半導体関連部材などもDNPの製品です。

そして、これらの製品のすべてが印刷技術から生まれ、画期的な商品の登場を促し、今日の私たちの豊かな暮らしを支えています。

限りなく拡がる印刷技術の可能性

印刷技術の特長の一つは、極小の精密な模様を形成できることで、フォトリソグラフィーやエッチングなどの超微細加工技術がそれを可能にしています。DNPはこれらの技術を軸に、それまでとは全く異なる新しい製品分野を切り拓いてきました。

その最初の転機は、1958年にDNPが日本で初めて製造したカラーテレビ用シャドウマスクです。0.2mm程の薄い銅板に、数百万の超微細な孔を開けることに応用されました。

その後、超微細加工技術の応用範囲は、LSI回路の原版になるフォトマスク、半導体チップの接続端子になるリードフレーム、あるいは液晶ディスプレイ用カラーフィルターなどへ拡大し、最近では、毛細血管を再生する再生医療の分野や有機太陽電池などのエネルギー分野にまで広がってきています。

印刷の領域が、紙からフィルム、金属、ガラスへと発展し、さらには人間の「細胞」にまで及び、DNPの印刷技術がそれを可能にしているのです。

DNPは創業以来、印刷技術の研鑽に努めてきました。明日の豊かな社会を拓くために、DNPは印刷技術の可能性をさらに追求していきます。



赤田正典(役員知的財産本部長)1974年修士、篠原研
杏掛正樹(研究開発センター副センター長)1976年修士、高橋研
ほか、50名以上の応用化学卒業生が活躍しています。

■凸版印刷株式会社

「情報・文化の担い手として
ふれあい豊かに暮らしに貢献します」

所在地：東京(本社)

社員数：47,522名(連結、2009年3月末)

売上高：1兆6,173億円(連結、2009年3月末)

主事業：証券・カード、商業印刷、出版印刷、
パッケージ、高機能部材、建築材、
ディスプレイ関連、半導体関連

凸版印刷は1900年、当時の最先端印刷技術であるエルヘート凸版法をもって、大蔵省印刷局出身の技術者を中心に精密印刷物を供給する企業ベンチャーとして創業しました。以来100年余りの間、設立趣意書の志、『最新のテクノロジーを駆使し、高品質の製品・サービスを広く社会に普及させていくことを目指す』を受け継ぎ、印刷技術を核とした様々な製品・サービスを生み出し、事業領域を拡大し、今日に至っています。

例えば液晶カラーテレビのカラーフィルタ、クリーンエネルギーとして期待されている太陽電池・燃料電池関連製品、遺伝子治療関連のSNPチップなどが挙げられます。

今後もさらに事業領域を拡大し、「情報・文化の担い手として ふれあい豊かに暮らしに貢献する」企業理念の実現を目指します。

当社の研究開発分野

上に掲げたように、当社の事業領域は非常に多岐に亘り、限られた紙面で全てを紹介するのは困難ですので、ここでは当社が推進する研究開発活動についてご紹介します。今回紹介できなかった内容については、弊社のホームページ <http://www.toppan.co.jp/> を是非ご覧になって下さい。

当社の研究開発の特徴は、事業分野の枠を超えた基礎技術の追求にあります。凸版では埼玉県杉戸町の総合研究所を中核として、3つの基礎技術・要素技術に関して多岐にわたる研究を推進しています。

「材料技術研究」では、独自性のある材料設計、実用化を踏まえた新プロセス開発、および

トッパンの研究開発分野



緻密な解析技術を駆使し、新事業への道を切り拓く材料開発の改革に挑戦しています。

「生産技術研究」では製造ラインの自動化・電子化・ネットワーク化など、技術革新のために、印刷・コーティング・成形加工などの技術を科学的に解明し、合理的で再現性のある最適プロセスの構築と実現に取り組んでいます。

「情報技術研究」では、得意とするデジタル技術をベースとし、画像処理関連や情報配信系の研究開発を推進し、情報・ネットワーク系、パーソナルサービス系の事業領域拡大に向けて対応しています。

さらに、国内外の有力企業や大学、研究機関との共同研究を推進し、次世代に向けた研究開発も同時に推進しています。

現在当社には約20名の応化OBが在籍しています。特にここ数年は連続して卒業生を迎えています。彼らは入社後早い時期から早稲田で培った力を発揮し、一人前の戦力として活躍しています。興味を持たれた方は是非、一度当社を訪ねてみてください。

矢澤 一郎(本社品質保証部部長)森田菊地研、1983年卒
大久保 透(総合研究所次世代・環境エネルギー研究所)黒田・菅原研、1995年卒
土井 隆二(本社事業推進センター)土田・西出・武岡研、2000年卒
吉澤 賢一(本社知的財産部)逢坂・本間研、2002年卒
その他21名(全員では25名)の応用化学卒業生が活躍しています。

今ここで頑張っています

研究支援の現場から……出会いを大切に

理化学研究所基幹研究所 先端技術基盤部門 連携支援チーム
中尾愛子(新制32回卒)



応用化学科に入学してから30年以上がたち、その間、様々な時に「人」、「研究」、「装置」などとの出会いがあった。今振り返ると、いろいろな分岐点で、それが社会人としての方向決めの指針になったように思える。

1984年土田研究室を修士で卒業、企業に就職したが、男女雇用均等法が施行される前年であり、まだまだ、女性が思いっきり活躍する機会は得られなかった。しかし、企業にいた6年間においてX線光電子分光(XPS)と出会い、それによって今の私があると言っても過言ではない。

1990年、企業での日々に限界を感じていた頃、日本化学会誌の公募欄の「X線光電子分光の経験者」という内容が目にとまり、思いきって公募に応じ、理化学研究所の研究支援部門である表面解析室(当時)に採用された。私を採用してくれた今は亡き坂入室長は、二人のお嬢さんがいたこともあり、女性が活躍してほしいという大きな希望があったと、後になって教えてくれた。坂入室長との出会いもまた、今日の私には欠かせない出来事である。

採用された当時は、XPSや走査型電子顕微鏡などの装置だけがあり、使える研究者だけが使う体制であったが、依頼分析の開始や講習会の実施、保守契約を結んでの装置の管理体制の強化など、支援体制を整えていった。入所から2年後長女が生まれたが、7か月で復帰、育児休暇取得第一号としての重責を自分自身に課した。その娘も現在高校3年生である。

支援部門であったが、研究の自由もあったので、10年以内に学位をとる事を目標とした。そこでも、新しい手法との出会いがあった。「イオン注入法」という表面改質手法である。最初は、金属へのイオン注入という、まったく未知の世界から始まり、だんだんと、自分が研究室で学んだ高分子材料へのイオン注入にシフトし

ていった。子育てをしながら研究を積み上げていき、2000年高分子研究室の先輩である東京大学マテリアル工学科石原一彦教授のもとで学位を取得した。大学の研究室での研究内容とは全く違う内容であったが、研究室の3年間において、先生方や先輩達が厳しく指導をしていただいたおかげで、研究のアプローチの仕方が身についていき、目標を実現できたと思っている。

自分で一つの研究をまとめ上げると、研究支援を行う上でも非常にその経験が役に立つ。単に研究者から依頼される分析から、「研究者が何を知りたいかという観点から試料を解析する」という対応に変わった。こちらから、「そのためには、こういう試料の分析も必要ですから、準備をお願いします」と助言することも多く、高度支援への対応が可能となった。

昨年4月より、連携支援チームのチームヘッドとなり、XPSを用いた研究支援に加えて、全理研の基盤部門の連携を見据えた支援全般の基幹研の窓口、また、先端技術基盤部門として、全理研への支援を供給する窓口としての役割を担っていく「連携支援」のミッションが加わった。会社における技術営業とマーケティングをミックスしたような内容であり、研究者の方々にとっては新しい種類の「支援」なので、壁もあり誤解もあり、苦労の日々であるが、サポートをしてくれる仲間がいる。それは、数年前の所内の会議における出会いにおいて構築した信頼関係の賜物であったりする。また、何よりの人脈は、応用化学の先輩、友人、後輩であることは言うまでもないが、振興調整費のプロジェクトで出会った産官学の方々やいろいろな場での出会いが人脈となり、私の能力以上の企画や連携が可能となっている。

これから定年までの10年間、出会いを大切にしながら、連携支援という新しいミッションを確立すべく頑張っていこうと思う。

応化教室近況① 受賞（応化会ホームページより）

「岡野光夫 東京女子医科大学教授 紫綬褒章受賞」

早稲田大学理工学術院教授 武岡真司(新制第36回卒)



平成21年4月29日、早稲田大学応用化学会会員(S.49卒、同大学院博士課程S.54修了)の岡野光夫氏(東京女子医科大学先端生命医科学センター センター長・教授、早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構 客員教授)が平成21年の春の紫綬褒章を受章しました。紫綬褒章は学術、芸術上の発明、改良、創作に関して事績の著しい者に贈られるものです。岡野先生については、平成17年の江崎玲於奈賞、平成21年の科学技術分野の文部科学大臣表彰に続き、21世紀の最先端医療を実現させる医工学、再生医療の発展に多大なる世界的な貢献を果たした永年の功績が認められました。祝賀会は、6月1日京王プラザホテルにて江崎玲於奈先生を主賓に迎え相澤益男先生の乾杯の発声で盛大に行われました(写真)。

岡野先生は、温度応答性高分子であるポリ(N-イソプロピルアクリルアミド)をナノスケール(nm, 10^{-9} m)の厚さと超微細構造を制御して培養皿の表面に被覆することに成功させました。この表面は37℃で疎水性を示し、細胞を接着、増殖、培養することができ、その後37℃から20℃に温度を低下させると表面が疎水性から親水性へと変化して、細胞をその構造と機能を損なうことなくシート状に剥離させることができます。更に細胞シートを積層化させることによって三次元組織化を実現するといった、「細胞シート工学」を世界に先駆けて創出し、再生医療を大きく進展させました。角膜上皮再生治療では臨床研究で30名以上の患者の自己細胞(口腔粘膜幹細胞)を用いた治療に成功し、2007年9月よりフランスで治験を開始しています。また、阪大との共同研究で2007年拡張型心筋症患者の治療に心筋細胞シートを貼り付けて心筋の再生に成功し、女子医大内でも食道上皮ガンの内視鏡的手術後に細胞シートを貼り付けて再生治療する臨床研究を2008年4月より開始しています。

岡野先生には早稲田大学の医理工融合の展開も先導していただいております。平成6年に東京女子医科大学医用工学研究施設の教授に就任され、平成11年には同施設の施設長になりました。平成13年には同施設を先端生命医科学研究所と改称し、医学研究科に先端生命医科学系専攻を創設しました。同時期に早稲田大学に新設された生命理工学専攻と連携するシステムを構築しました。平成16年に「戦略的研究拠点育成プログラム」として「先端科学と健康医療の融合拠点の形成(ASMeW)」が採択された折に、客員教授になられこのプログラムの発展に貢献し、これが基になって平成20年に東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命医科学研究教育施設(TWIns)が建設され、初代施設長となっています。さらに平成22年4月には東京女子医科大学と早稲田大学が医療レギュラトリーサイエンスの分野で共同大学院博士課程をスタートさせることが予定されており、その立ち上げにも尽力されています。

以上のように、従来の医療のタテ型の枠組みを超えた医学と工学の横断型の連携を基板に新しい研究教育の大学院をスタートさせながら、鎖開発の再生治療の発明に留まらず、難病、障害者を救う先端医療の発展への貢献が認められました。岡野先生の医工融合研究のスタイルや人材教育に対する哲学が今回の受章となったのは誠に喜ばしい限りであり、我々教員も励みにさせていただきたいと思えます。誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

応化教室近況② 新博士紹介(工学)授与(平成21年3月)

氏 名	主査(敬称略)	博士論文題目(その訳)
ハタ ヒデオ 秦 英夫	黒田 一幸	Preparation and Applications of Hybrid Materials by Intercalation of Functional Substances into Layered Oxides through Manipulating the Interlayer Surfaces (層表面制御による層状酸化物への機能物質のインターカレーションによるハイブリッド材料の合成と応用)
アダチ ケン 足立 賢	常田 聡	Development of New Analytical Method for Specific Nucleic Acid Sequences Using Affinity Capillary Electrophoresis (アフィニティーキャピラリー電気泳動法を用いた新規核酸解析手法の開発)
アライ トシノブ 新井 利信	木野 邦器	Search and Characterization of the Microbial Enzymes Catalyzing Peptide Synthesis from Unprotected Amino Acids (無保護アミノ酸を基質とする微生物由来ペプチド合成酵素の探索とその諸性質解析)
オバタ ヨウスケ 小幡 洋輔	武岡 真司	Efficient Intracellular Delivery of Biomacromolecules by Liposomes Containing Amino-acid Based Lipids (アミノ酸型脂質を用いたリポソームによる生体高分子の高効率な細胞内運搬)
キム ジャンディ 金 ジャンディ	逢坂 哲彌	Preparation and Development of Non-Platinum Pd-Sn Catalyst for Oxygen Electrode of Fuel Cells (燃料電池酸素電極用非白金Pd-Sn触媒の作製と開発)
クロタニ マサヒロ 黒谷 正博	平沢 泉	Study on Selective Crystallization of Organic Compounds (有機化合物の選択的晶析手法に関する研究)
シヨウジ マサミ 庄司 雅己	西出 宏之	Synthesis of Microphase-Separated Oxygen-Carrier Block Copolymers and Facilitated Oxygen Transport through the Membranes (ミクロ相分離構造を形成する酸素キャリア高分子膜の合成と酸素促進輸送)
タカハシ シュウスケ 高橋 周相	桐村光太郎	Microbial Transformation Utilized for Acid-Catalyzed Redox Reaction to Produce Valuable Compounds (微生物変換を利用した酸化還元反応による有用物質生産 (Bioproduction of Valuable Compounds through Bioconversion Based on Redox Bioreaction))
トミナカ サトシ 富中 悟史	逢坂 哲彌	Development and Evaluation of Catalyst Layers of Direct Methanol Fuel Cells (直接メタノール形燃料電池の触媒層の開発と評価)
ハラ リョウタロウ 原 良太郎	木野 邦器	Screening of the Microbial Amino Acid Modifying Enzyme and Its Application to Synthesis of Amino Acid Derivatives (微生物由来アミノ酸修飾酵素の探索とアミノ酸誘導体合成への応用)
フルカワ カズヒロ 古川 和寛	常田 聡	Fluorescent Detection of Nucleic Acid Using Intelligent Oligonucleotide Probes toward Intracellular RNA Imaging (生細胞内RNAイメージングを志向した機能性核酸プローブを用いる核酸分子蛍光検出法の開発)
マツダ マサト 松田 雅人	酒井 清孝	Nanotechnological Characterization of Wet Dialysis Membrane Surface (湿潤透析膜表面特性のナノ評価)
マツモト シンヤ 松本 慎也	常田 聡	Development of Methodology to Analyze Microbial Ecophysiology in Biofilms by Combining Molecular Biology Techniques and Mathematical Modeling (分子生物学的手法および数学モデルを併用したバイオフィルム微生物生理生態解析方法論の構築)

応化教室近況③ 奨学金選考状況 (応化会ホームページより)

5月9日(土)開催の推薦委員会の推薦に基き、5月14日(木)の教室会議において第5回給付奨学生が決定いたしました。

今回の審査委員会メンバーは河村委員長、柳澤、速水、平林、細田、大矢各委員に教室から木野主任、菅原教授が加わり8名でおこなわれました。各人との面接と審査委員の検討会を経て最終的には5名に給付することといたしました。

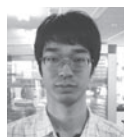
下記平林副会長(委員)の審査経過報告をご参考ください。

第5回応化会奨学生選考にあたって

早稲田応用化学会副会長(奨学生推薦委員) 平林 浩介

5月9日開催の推薦委員会の推薦に基き、教室会議での審議の結果、5名の給付奨学生が決定いたしました。

なお早稲田応用化学会給付奨学金内規および前年度までの当該奨学金受給者の状況を勘案し、本年度は5名を5月14日開催の教室会議に推薦し、原案どおり決定いたしました。決定した5名の奨学生は5月26日の定期総会後の懇親会において、先輩諸兄にお礼と今後の勉学に励む決意の挨拶をいたしました。



菅野 陽将君
(菅野研M2)



齊藤ひとみ君
(菅原研M2)



佐野 直樹君
(西出研M2)



古田 篤史君
(常田研M1)



林 政平君
(本間研M1)



早稲田大学 先進理工学部 助手
服部貴澄(新制53回)

1. 研究内容

食品や清涼飲料の酸味料として使用されているクエン酸の需要は世界的には年間160万トンに達している。クエン酸は金属に対して強いキレート作用を示すことから、洗剤のビルダーなど生分解性のキレート剤としての需要も増大している。クエン酸はそのすべてが、クロコウジカビ(糸状菌*Aspergillus niger*)の発酵生産によって供給されており、クエン酸発酵は工業的発酵の代表例の一つとなっている。

筆者らは、好氣的生物に普遍的に見られるシアン感受性のシトクロム呼吸系のほかに、クエン酸生産糸状菌にはシアン非感受性の呼吸系が存在することを見出している(図1)。この呼吸系は、酵素alternative oxidase(AOX)によって構成され、代謝の調節や活性酸素の発生抑制の役割を担っている。筆者は、遺伝子工学や代謝工学などのバイオテクノロジーの手法を応用して、クエン酸生産機能の改変やシアン非感受性呼吸系の解析を行い、クエン酸生産糸状菌の新規機能開発に関する研究を進めている。以下にその一例を紹介する。

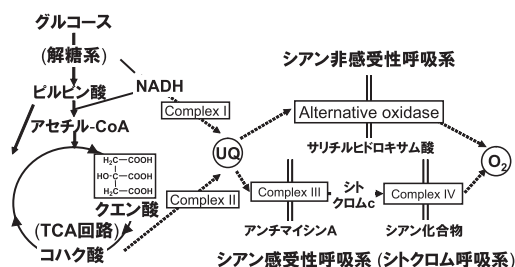


図1 クエン酸生産糸状菌の呼吸系と代謝

1-1. 緑色蛍光タンパク質(GFP)を用いた呼吸系酵素のバイオイメーキング

GFPは、蛍光観察によって細胞内での挙動を容易に検出できるため、細胞内の変化を視覚的に解析するバイオイメーキングに広く利用されている。筆者らは、AOXとGFPの融合遺伝子をクエン酸生産糸状菌の染色体に導入し、

AOXの視覚的発現解析を可能とした。当該解析法を適応し、AOXがミトコンドリアに局在することや胞子の段階からAOXが存在することを見出した(発表論文参照)。また、クエン酸生産条件下でのAOX遺伝子の発現状況や酸化ストレスへの応答についての解析に成功した。以上のように、クエン酸発酵現象の解明にバイオイメーキングの手法を取り入れ、新規な研究展開を図っている。

1-2. 遺伝子破壊および高発現を利用したクエン酸生産糸状菌の代謝工学

AOXのクエン酸生産への関連を解析するために、AOX遺伝子の破壊株および高発現株を作製した。AOX遺伝子高発現株ではクエン酸生産条件下におけるグルコースの消費量が増加し、それに伴ってクエン酸生産量が最大5%増加した。一方、AOX遺伝子破壊株のクエン酸生産量は約5%減少した。すなわち、AOX遺伝子1つの発現量の調節によってクエン酸生産量の増減が可能なことを示し、シアン非感受性呼吸系がクエン酸生産に関連することを初めて明らかにした。また、糖代謝に関与する別の遺伝子についての破壊や高発現についても検討しており、代謝工学の観点からクエン酸生産糸状菌の機能開発が可能なことを実証している。

2. 今後の展開

現在、植物系バイオマスをはじめとする、再生可能な資源を原料とした化成品生産についても検討している。バイオテクノロジーを応用したクエン酸生産糸状菌の機能開発に強い手応えを感じながら研究を展開している。

3. 発表論文

T. Hattori *et al.*, *Curr. Microbiol.*, **58**, 321-325 (2009).

T. Hattori *et al.*, *J. Biosci. Bioeng.*, **105**, 55-57 (2008); **102**, 210-214 (2006).



早稲田大学先進理工学部 助手
松田 雅人(新制54回)

1. 研究内容

血液透析治療に用いられている透析膜は、治療中に長時間血液と直接接触するため、高い病因物質除去能だけでなく、優れた生体適合性が求められる。血液と直接接触する中空糸膜内表面は生体適合性に大きく影響するが、内表面特性は親水化剤ポリビニルピロリドン (Polyvinyl pyrrolidone:PVP) 配合などの膜表面処理や γ 線滅菌などの滅菌処理の違いによって変化する。

本研究では、親水化剤PVPに着目し、PVP配合の有無が表面特性に与える影響およびPVP溶出が表面特性に与える影響を原子間力顕微鏡 (Atomic Force Microscopy: AFM) を用いてナノレベルで検討した。

①PVP配合による表面特性の変化

PVP配合の有無が異なる湿潤ポリスルホン透析膜表面の構造 (図1)、硬度(図2)、ヒト血清アルブミン (Human serum albumin: HSA) 吸着力 (図3) を、AFMを用いて評価した。PVPを配合することにより、水和膨潤したPVP粒子が膜表面に不均一に被覆し、表面の柔軟性を向上させることを明らかにした。また、PVPの配合による透析膜表面HSA吸着の緩和をナノレベルで明らかにした。

②PVP溶出に伴う表面特性の変化

透析治療中の血液流動に伴うずり応力により、透析膜表面のPVPが溶出する。これまでの研究では、溶出したPVPの生体侵入のみが着目されており、PVP溶出後の透析膜表面特性の変化は明らかにされていない。本研究では、臨床条件と同程度のずり応力を負荷することで生じる膜表面PVPの溶出と、表面構造、硬度、HSA吸着力の変化の関係を初めて明らかにした。

2. 今後の展開

血液透析治療は、増え続ける慢性腎不全患者に対して最も有効な治療手段であるが、腎機能を快復させることはできないため、長期治療が必須である。長期透析患者の合併症改善には、透析膜の生体適合性向上が急務であり、本研究を通じて、透析治療の改善に努めていきたい。

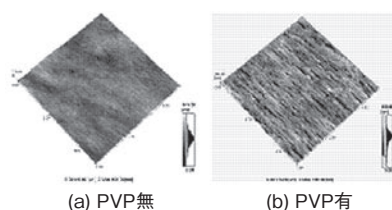


図1 ポリスルホン透析膜表面のAFM像

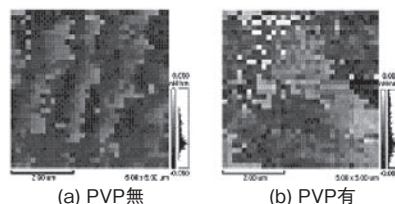


図2 ポリスルホン透析膜表面の硬度分布

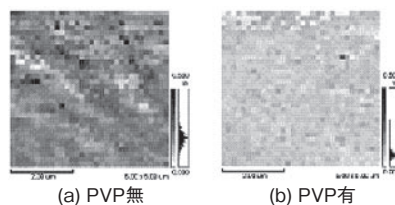


図3 ポリスルホン透析膜表面のHSA吸着力分布

3. 発表論文

Matsuda M, Sato M, Sakata H, Ogawa T, Yamamoto K, Yakushiji T, Fukuda M, Miyasaka T, Sakai K. Effects of fluid flow on elution of hydrophilic modifier from dialysis membrane surfaces, J Artif Organs 2008; 11: 148-155

同期会

■いつも変わらぬ卒業51年目の賑やかなクラス会（昭和33年新制8回同期会）



卒業して満51年。欠かさず毎年クラス会を開催しております。今年は昨年と同じ会場（丸の内・国際ビルの東京ファミリークラブ）で、出席者はこの数年ほとんど変わらない27名。

川上良策君の乾杯の音頭で始まった会は、始めはお互いに親しく懇談しておりましたが、幹事の指名により応化会の活性化活動に携わっている柳澤基盤委員より、この1年間の早稲田応用化学会の活動およびその成果等について説明がありました。そのなかには理工学部創立100周年・応用化学科90周年・早稲田応用化学会85周年の記念事業が開催されたこと、応化会の会員名簿が5年ぶりに発行されたこと、応化の先生方の研究成果が認められ、逢坂哲弥先生の文部科学大臣科学技術賞、竜田邦明先生の藤原賞、日本学士院賞受賞など明るいニュースが続いていること、そして創設僅か2年目の応化会中部支部において、クラスの仲間の牧野兼久君が支部長として、また仲間の笠倉忠男君が2月の支

部総会で「環境問題に携わって40年」と題する講演をしたとの活躍ぶりが紹介されました。

引き続き、出席の仲間から順次、近況報告があり、まだ仕事を続けている仲間もおりますが、さすがに年々減ってきて、仕事の話より毎日の生活の話が中心になってきております。



その中には、次世代の注目されているエネルギー源である太陽電池の調査研究をしている、認知症にかからぬ対策調査を行っている、新裁判員制度による裁判員候補に指名されたなどなどいろいろな話題が出てきました。趣味の話も盛んでゴルフ、麻雀、競馬。囲碁はこのクラス仲間でも月1回の同好会を開いており、現在14名が参加し、その実力は全員初段以上の腕前とか。また、このクラスの仲間は卒業後1-2年で結婚したものが多く、今年あたりから金婚式を迎えるとお目出度い話も飛び出してきました。

最後に、昨年のこの会で、卒業50周年を記念してクラス全員で、早稲田応用化学会の給付奨



学生寄付事業に協力し、30万円の寄付をしようとの幹事の提案に対し、皆が賛成しましたが、その後、直ちに実行されたことについて代表世話人の大矢英男君から事後報告がありました。

予定の閉会時間も迫り、皆で校歌を唄い、ま

た互いに健康に留意して来年も元気で再会しようとして最後まで盛り上がった会でした。

本年度のクラス会幹事は中野宗太、平子堅一および二見貞三の3君でした。

(2009年3月13日)

■平成21年「応化41会」(新16 昭和41年卒) 開催報告



2009年3月28日(土)大隈記念タワー15階「西北の風」において、平成20年度「おかしい会」が開催された。最新のキャンパス情報に疎くなったという声を参考にした会場設定だった

が、高田馬場駅から真っ直ぐ26号館へ到着出来た人は少ない様だった。

予定された午後6時過ぎには前回と比べやや少ない15名が揃い、幹事の発声で飲み放題立食パーティがスタートした。最初は用意された資料を片手に個別の会話が、そして隣りの大グループが解散して以降、出席名簿順に一人々々が近況や昔の思い出を熱く語った。年々完全リタイアー組が増えたせいも、気心知れた仲間同士でゴルフをやろう、山に登ろうと言った呼びかけも増えた様だった。少々こじんまりとした雰囲気だったが、和やかな会話は途切れることがなかった。

今回幹事：野本暢夫、

永久幹事：川村 剛、植木 彰

■応化三九会(新14 昭和39年卒) 45周年記念会

応化三九会は今年で卒業45年目を迎え、4月12日(日)に45周年記念会を開催しました。これまで5年目毎に開催をしてきましたので、5年振りの再会です。

これまでは、現役の会員の伝手で趣向を凝らしていろいろのところで開催してきましたが、今年は、原点に帰って早稲田の杜でやろうと、大隈庭園、大隈講堂が見渡せる「リーガロイヤルホテル カトレアの間」に集まりました。

同期卒業76名中32名が集まり、42%の出席率はやや淋しいでしたが、完全リタイアで初めて参加した人があるかと思うと、介護や不況対応などで出席できないと連絡してきた人も多く見受けられ、これもご時世でしょうか。

13時開始でしたが、12時過ぎから続々と詰めかけ、2時間飲み放題コースとあって予定してなかったウエルカムドリンクを急遽用意するほど、会が始まる前から熱気に溢れました。

冒頭、この5年の間に故人となった2名の仲間に黙祷を捧げた後、応用化学科の重鎮・菊地さん

から新制応用化学科の活躍ぶりについて話を聞き、また、平中広報委員からは同期で副会長、交流委員、奨学生推薦委員、広報委員に5名が活躍していることを紹介し、会費納入や寄付について今後の絶大なるサポートの要望がなされました。

限られた時間で、個々に近況報告をやっていたら、歓談の時間がなくなるので、事前に近況を出欠の返信葉書に書いてもらい、それを前刷りにして配りプレゼンテーション一切なしということで進めました。

それでも2時間はあっという間に過ぎ、最後に岡本さんの指揮による校歌の大合唱で余韻の醒めやまぬまま、5年後の50周年記念会での再会を誓って散会となりました。

(2009年4月13日 文責：平中)



乾杯！！



飲談



お疲れの人も……



大隈講堂をバックに校歌指揮



♪都の西北早稲田の杜に……



記念写真

卒業生近況（応化会ホームページより）

同門会

■石川研究室同門懇親会2009の開催報告



恒例の石川研究室同門懇親会が今年も6月の第2土曜日(13日)に有楽町ニュートーキョー9Fステラで開催されました。同懇親会は今年で8回目を迎え、田原大先輩(22年卒、御歳85.8歳)から佐藤さん(47年卒)に至るまで35名が参集、野際幹事(39年卒)の名司会の下で奥川代表幹事(36年卒)の開会挨拶、樋渡先輩(28年卒)のスピーチ、平林先輩(35年卒)の乾杯の音頭と続き、その後あちこちに円陣が出来て故石川先生・田中先生を偲びつつ昔話に花が咲きました。

それにしても、今年は石川研究室の最後の卒業生(48年卒)が還暦を迎えリタイアの話が取りざたされる年齢となっており、同門会の平均実年齢は年毎に高齢化が進んではいるものの、懇親会の光景はまだまだ熟年の集いといった感じでした。

今回のアトラクションは、綱島先輩(37年卒)

がリーダーをされている応化ウクレレ同好会の皆さんによる演奏で、綱島リーダーに加えて卒業生、並びに学部(他学科の学生さんも)・大学院の学生さん(男子2名、女子4名)が参加してくれました。

綱島リーダーの好リードで、カイマナヒラ(ハワイアン)の演奏に始まり、途中参加者からのリクエスト曲も交えて、エーデルワイス、地上の星、山小屋の灯、人生劇場等を演奏に合わせて合唱し、最後にドレミの歌で締めくくるまで実に10曲、予定時間もかなり越える楽しい大アトラクションとなりました。途中、綱島リーダーが日頃老人ホームによく慰問に行かれているとの話もあり、(今日は違うと)失笑を買う場面もありました。





ウクレレ演奏・合唱の余韻、そして昔話は尽きないまま、時間の関係で恒例の校歌斉唱、奥川代表幹事による閉会挨拶で中締めとなり、飲み足りない話足りない皆様は、2Fのさがみに移動して夕方まで大いに盛り上がりました。前回まで代表幹事をされていた柳澤先輩(33年卒)、中西先輩(34年卒)が勇退され、奥川新代表幹事の下で開催された懇親会は、かくして皆様のご協力を得て恙無く終了致しました。

来年も6月第2土曜日に同じ場所で懇親会が開催されますので、今回参加されなかった同門の皆様も是非ご参加下さい。

(記：堀江 46年卒)

■第2回「στの会」懇親会開催報告



第2回στの会集合写真

第2回目の「στの会」を7月18日(土)に大隈記念タワー15階の「西北の風」で開催しました。前回同様に、早稲田ゆかりの地で気軽に参加できるようにと、立食パーティー形式となりましたが、参加者は約30名となりました。

今回も多田先生はもちろん、佐藤先生のご家族にもご参加をお願いし、懇親することになりました。佐藤研と多田研は、発足がほぼ同時期で純正有機化学をメインにしていたことから、当初から実験器具や薬品の相互融通、ゼミや卒業旅行の共同開催など、親密な交流と相互啓発が続いた研究室同士であり、出席者はその繋がりを再確認しました。

会は第1期のマスター卒業生(新制17回)である小場瀬さんから話題提供として「脳の話」を分かり易く、事例なども交えお話いただいた後、乾杯と懇親に移りました。参加者は、佐藤研最終卒業生となる新制45回の卒業生まで、年齢幅で約30年のメンバーが一堂に会しました。

一通りの懇談を終えた後に、質問コーナーの時間を設け、話題提供の「脳の話」にまつわる質問や、年代間の相互理解のための補足質問等で、お互いの理解を深めました。和気藹々の懇親・懇談で、あっという間に時間が過ぎましたが、名残惜しげに散会となりました。2次会があれば馳せ参じるという会員もありましたので、「高田牧舎」で2次会も行い、新たに合流した2名を含め、長時間の会となりました。また、次回以降は毎年3月の第1土曜日を候補として、開催しようという方向性で合意しましたので、是非、皆様におかれましてもお含みください。

末尾になりますが、今回のこの同門会便りで開催を知った方も居られると思いますが、メールアドレスの判明している方々への呼びかけで開催に漕ぎ着けています。事情をご理解を頂きたいと同時に、不備のあったことはお詫びしたいと思います。次回に向けてメール連絡網を整備するためにも、是非、会員の方々のアドレス登録を井上まで(下記アドレス)お願いいたします。

(文責：幹事役、新制19回井上健・

takeshi.inoue@akane.waseda.jp)



多田先生と佐藤先生のご家族

加藤忠蔵名誉教授 米寿のお祝い

加藤忠蔵先生が来年1月3日にめでたく88歳を迎えられます。そこで、先生のご薫陶を受けた卒業生約100名が集まり、本年5月30日(土)午後、日本工業倶楽部大ホールにおいて、先生の米寿をお祝いする会が開催されました。

発起人代表 黒田一幸 早稲田大学教授の挨拶に続き、木邑隆保 芝浦工業大学名誉教授、棚橋純一 早稲田応用化学会元会長からご祝辞を頂戴致しました。加藤忠蔵先生からのご挨拶では、出席者一同、ユーモアとウィットにあふれる先生のお話に聞き入りました。里見多一 早稲田応用化学会前会長の発声で乾杯し、祝宴となりました。先生ご夫妻は各テーブルを廻られ、卒業生とご歓談や写真撮影をされました。

その後卒業生を代表して、木村茂行氏(昭和

38年)、土井章氏(昭和40年)、中戸晃之氏(昭和62年)から先生との数々の思い出をお話頂きました。先生ご夫妻に花束を贈呈し、全員で記念撮影をした後、先生からご挨拶を頂戴しました。満場の拍手のなか、先生ご夫妻がご退場され、閉会となりました。

先生のご長寿をお祝いする大変和やかな会となりましたこと、皆様に厚く御礼申し上げます。

発起人(敬称略)

黒田一幸(代表)、木村茂行、土井章、

里見多一、山崎信幸、小鍛冶直史、

和田宏明、菅原義之、宮田浩克、

柳澤恒夫、里川重夫、小川誠、中戸晃之

(文責:菅原義之、新33回卒、応用化学科教授)



加藤忠蔵先生のご挨拶



黒田一幸教授のご挨拶



歓談される加藤忠蔵先生ご夫妻



にこやかに退場される加藤忠蔵先生ご夫妻



記念撮影(昭和26-39年卒業生と)



記念撮影(昭和40-59年卒業生と)



記念撮影(昭和60-平成4年卒業生と)

旧制・工経卒業生

- 中岡 敏雄（昭和12年卒・旧17回）
卒業年次が古いから同期生の殆どは残って居らず、誠に寂しい極みである。だが時には応化会の元気な精鋭達に接する機会に恵まれて有難く思っている。
- 鈴木 亮一（昭和18年卒・旧24回）
腰痛のため欠席致します。諸兄の御健勝を心からお祈り申し上げます。
- 松山 晴雄（昭和20年卒・旧26回）
お蔭様で年齢相応に元気で暮らしております。会員の皆様のご活躍とご健勝を祈ります。
- 中島 健太郎（昭和21年卒・旧27回）
加藤先生の九十年の思い出を感慨をもって拝読しました。私は昭和21年卒、28人中、ともに就職できたのは2人だけでした。去る4月14日、クラス会では28人中7人が出席、皆元気です。私は前立腺がんを患っています。ホルモン療法のおかげで共存しています。早期発見が必須。60才を過ぎたら血液のPSA検査で早期発見ができます。
- 川口 史郎（昭和24年卒・旧30回）
(社)日本空手協会兵庫県本部会長の任を退き、名誉会長として週一回の子供達との稽古、いろいろのイベントを楽しんでいます。
- 大江 昭二郎（昭和26年卒・旧32回）
ご指導よろしくお願い致します。
- 板倉 宗男（昭和16年卒・工05回）
92才を過ぎ十種類以上の薬を飲まされていますが、まあまあ元気のほうで毎日5,000歩以上歩くように心掛けています。
- 大久保 良治（昭和17年卒・工06回）
同期の者の殆んどが他界されました。生き残っているものとも最近殆んど連絡していませんので未だ元気のものが居るでしょうが不明です。私自身病院へ行く以外は門より外へ出ることなく庭でたまに歩きまわることが生きがいです。会の成道を祈ります。

新制卒業生(1回～10回)

- 大野 正雄（昭和26年卒・新01回）
コロナプランの教育研究プロジェクトで、

中東・イランでの教員養成大学で化学教育指導をしたのが1968年。その後、縁あった中東イスラム圏を動きまわった。中東諸国への思い入れが強い。少々旧聞になるが、早稲田大学に"中東総合研究所"ができたとのこと。"理工系"も含まれているとのこと。応用化学科も協力されることを期待したい。

- 堤 健二（昭和27年卒・新02回）
今年こそは出席したい。特にフォーラムは是非と思っておりましたが、別件予定が入り欠席となりました。残念です。最近再び旧会社より若者の教育・指導の活など受け多忙です。
- 田口 直廣（昭和29年卒・新04回）
元気旺盛、ゴルフに専念中。
- 渡辺 隆夫（昭和29年卒・新04回）
○295(碁)会:29年卒業のメンバーで年6回有楽町にて碁を楽しんでいます。参加者は8名、碁を打った後の一極も楽しいひとときです。
○稲の会:これも29年卒業のメンバー10名で毎年銀座で写真と絵画の展示会を持っています。毎年2月ですが、今年で第9回を数え、来年で10回になります。充実した作品を展示していますのでぜひご観下さい。
- 池田 毅（昭和30年卒・新05回）
学部の名前が先進理工学部と変わったのは時代の流れで仕方ないのかもしれませんが、応用化学科の名前が残ったのは古い卒業生にとってうれしい限りです。齢を重ねて化学とはすっかり縁のない余生を送っておりますが、会報を読んで少しでもフォローしていくつもりです。
- 浮田 博良（昭和30年卒・新05回）
都立六高(現新宿高校)在学中から卒業後現在まで続けている「六声会合唱団」で昨年10月第26回演奏会を新宿文化センターで開催しました。
- 高野 不二雄（昭和30年卒・新05回）
新事業に失敗し反省の日々を送っています。
- 嶋根 政彦（昭和30年卒・新05回）
唯今不動産経営のかたわら風邪のひきにくいお水、洗わなくとも自然にあかが落ちるお水、血糖値の下げる効能のあるお水や免疫力の向上に役立つ糖質栄養素の健康食品の情報収集に努め、皆様の健康増進に役立つよう励

んでおります。

●柳瀬 昇（昭和31年卒・新06回）

現役の頃、川崎、尼崎、和歌山と転勤しましたが、今は最後の勤務地（埼玉県熊谷市）の近くに住居を定めて生活しています。OBや自治会の人達とゴルフなど交流を続けています。東京に遠いので応化会の行事に出席することが少なく申し訳なく思っています。会報No.79 加藤先生の記事をなつかしく拝見しました。

●伊藤 諦（昭和32年卒・新07回）

応化会のますますの発展と会員諸氏の一層のご活躍とご健勝を切に祈ります。S.32年卒のクラスメートも概ね後期高齢者になりましたが、年1回のクラス会（5月）には約30人位が元気に参加します。

●尾澤 正也（昭和32年卒・新07回）

陶芸と旅を趣味として、まずまず元気に暮しています。

●井田 昭（昭和33年卒・新08回）

昨年来体調を崩し、卒業50周年記念行事など各種行事に欠席しております。旧友達との再会を楽しみにしております。

●川上 良策（昭和33年卒・新08回）

近年の応用化学会の活動活発化大変心強く思います。

●中野 宗太（昭和33年卒・新08回）

抗加齢医学会に入会し、"Anti-Aging"のカタコトの勉強をしています。同課題の健康食品の開発をときどき手伝っていますが、大切なことは、日常の生活習慣です。

●平山 利治（昭和33年卒・新08回）

発明者のサポーター役をしております。

●小林 裕（昭和34年卒・新09回）

卒業して50年、お蔭様で元気に岡山市で過しています。早大応化誌と日本化学会の"化工誌"を楽しみにしています。

●土屋 一郎（昭和34年卒・新09回）

ネット囲碁を主催しております。インターネットで8路～21路の大小の碁盤を用いてすすめております。メンバーは4名（5段3名、初段1名）覗いてみて下さい。 <http://www.c-player.com/> 入会（無料）して「囲碁の集い」をご覧ください。

●関野 修弘（昭和35年卒・新10回）

昨年の記念式典では、最先端の研究設備および明るく活躍しておられる後輩のみなさんを

拝見でき、感慨無量でした。小生、海外に友人が多いため、毎年稲門会（校友会）の一人として友好に協力しています。

●平井 勝（昭和35年卒・新10回）

週4回中高生相手に数学指導、日曜日は藤沢ラグビースクールで小学生と汗を流す、6回目の年男となりましたが、まだまだ忙しい日がつづきそうです。

新制卒業生（11回～20回）

●水瀬 秀章（昭和36年卒・新11回）

弊社（株）ニッカテクノスは主に電子関連の化学品（機能性化学品）の輸出商社です。本年4月で11期目に入ります。テリトリーは台湾・香港・中国（広州、上海）へ全て円建です。経験と人脈により、古希を迎えますますます仕事にめり込んでいます。

●堀内 弘雄（昭和36年卒・新11回）

現役時代にかかわったエネルギー技術でお国の省エネ推進のお手伝いなどやっていましたが、少々つかれたので今後はのんびりゆったりの趣味で過したく思います。

●井上 成之（昭和37年卒・新12回）

毎年総会で多くの会員の皆様とお目にかかれるのが楽しみです。

●西 敏史（昭和37年卒・新12回）

我が人生スゴロクも、「上がり」に近くなりましたが、これから世の中に出て、家庭を持ち自分の夢をかなえていこうとする若い人にとって、昨今はなかなか厳しい環境になってきたように思います。しかし将来を担うのは若い人しかいない。先生も学生さんも頑張ってください。

●井上 征一郎（昭和37年卒・新12回）

昨年5月に入院、手術という予期せぬ出来事があり、体力衰退しましたが、現在元気になりました。早稲田応化会関西支部活性化のお手伝いをしています。結婚40年、70才という節目を越え、人生をエンジョイすることに集中したいと思っています。

●下井 将惟（昭和38年卒・新13回）

会員名簿作成は大変な力作であり、参考にさせていただきます。

●杉崎 喬（昭和39年卒・新14回）

技術士として、レジメーカーの顧問、日本技士会の委員等、頑張っています。皆様の御

健康とご活躍を祈っております。

●小川 弘(昭和39年卒・新14回)

1986年6月に三菱重工・広島研究所から横浜研究所に転勤して23年経ちました。横浜では専らごみ焼却炉の排ガス処理に係わってきました。広島で開発した排煙脱硝装置をごみ焼却炉にも使えるようにし、10年間でダイオキシン問題も解決できました。しかし、それが実証できたのは2003～4年のごみ焼却炉の排出ガス中や環境大気中のダイオキシン濃度の測定結果が報告されてからです。それで、2007年10月に環境省大臣から表彰されました。今年、3月に無事引退しました。

●服部 英昭(昭和40年卒・新15回)

ハイキングや教養講座等、身体と頭の両方を鍛えて楽しく暮しています。

●河野 省三(昭和41年卒・新16回)

現在、インドと機械製品輸出入の仕事に従事しており、なかなか大学の方へ出向く時間がなく申し分けありません。皆様方の御健勝と御活躍をお祈り申し上げます。

●宮岡 寛(昭和41年卒・新16回)

定年後はコーラス、植物観察、ハイキングなど室内、屋外の趣味を楽しんで元気にしています。4月末新型インフルエンザ流行の前に南イタリア・シチリア島を旅行して来ました。

●坪田 正行(昭和42年卒・新17回)

スキー、テニス、ドライブ等エンジョイしています。他に公取委のモニターを6年間拝命し食品偽装問題等の悪徳商法撲滅に取り組んでいます。

●西海 英雄(昭和42年卒・新17回)

教学改革のため工学部物質化学科より生命科学部環境応用化学科に今年より移りました。あと数年はがんばらなくてはなりません。

●加藤 匡紀(昭和43年卒・新18回)

2008年秋より、別府市にある立命館アジア太平洋大学の教授となり、単身赴任で留学生相手に授業をしたりゼミをしたりしています。勿論化学ではありません。今や文化人類学を専門としています。

●鶴岡 洋幸(昭和43年卒・新18回)

地域稲門会、応化会の活動を通じ、総長等の大学経営について聴き、大学への興味がふくらみました。通った社会人大学院で企業定年退職後文科省21世紀COEプログラムの研究

員を勤め昨年08年3月満期終了となりました。その後は充電中で……次を探しております。

●七條 光麟(昭和44年卒・新19回)

既に現役を退いた身ですが、本年7月以降ベトナムのハノイに駐在し或る会社の経営に従事する事となりました。会社名はNew System Vietnam Co.,Ltd.

●水上 春男(昭和44年卒・新19回)

定年退職後現在の会社でお手伝いをしています。若い人達の育成のためしばらく続ける予定です。総会を欠席して申し訳ございませんが、盛会をお祈り申し上げます。

●高橋 浩(昭和45年卒・新20回)

北海道大学を早期退職し、母校に戻って参りました。今度のお役目は、次代を担う博士人材の養成です。

新制卒業生(21回～30回)

●此島 保幸(昭和47年卒・新22回)

会社を3月末で定年退職。

●川島 親史(昭和47年卒・新22回)

60才を過ぎ会社生活も最後の直線です。3年間続いた山口での楽しい单身生活も終わり、東京に戻ってきました。

●鯨岡 雅高(昭和48年卒・新23回)

現在、コスモエンジニアリング(株)本社で勤務しています。定年まであと1年チョットです。

●海野 信(昭和48年卒・新23回)

会社はH21.3.27の株主総会にて退任しました。ハッピーリタイアです。

●長谷川 悦雄(昭和48年卒・新23回)

先端半導体製造用のレジスト材料の開発に関し、本年3月に大河内賞(技術賞)、本年4月に文部科学大臣表彰(科学技術賞)を受賞しました。皆様が使用されている最新電子デバイスの大半に使用されています。

●有山 達郎(昭和48年卒・新23回)

企業(JFEスチール)から東北大学に移って3年経ちました。ようやく卒業生を送りだすこともでき、海外からの留学生も受け入れ研究室らしくなってきました。

●斉木 博(昭和48年卒・新23回)

平成16年に電力中央研究所を退職し、東京工科大学に移ってまいりました。若い学生に囲まれて研究と教育を楽しんでいます。

●竹内 亮（昭和51年卒・新26回）

少しだけ新幹線に乗って宇都宮まで通勤しています。娘2人共大学生。親から巣立つ時を迎えようとしています。あともうひとがんばり(?)ふたがんばり(?)……笑
健康に留意して、充実した日々を過ごすことができるようがんばっています。

●平沢 泉（昭和51年卒・新26回）

色々な意味で、スパイラルアップしてきました。若い頃のしかけがゆっくりゆっくり実を結び、うまくまわっています。健康に留意し、研究・教育に、謙虚に精進したいと思います。

●伊藤 誠（昭和52年卒・新27回）

早いもので、会社生活30年が過ぎました。今年で東京電力(株)を卒業し、子会社の東電環境エンジニアリング(株)に転籍です。これからは、原子力発電の仕事に従事します。

●佐藤 秀行（昭和53年卒・新28回）

元気にやっています。

●小林 安久（昭和53年卒・新28回）

当社(NECエレクトロニクス)も来年合併します。勤務先の名簿も2010年4月より変わります。半導体も波瀾の状況です。

●木村 賢一（昭和54年卒・新29回）

28年の会社生活に区切りをつけ現会社に転籍。ついでに戸建て住宅に引越し。ツイのすみかでの生活をスタートさせました。とはいえ、まだまだ社会に貢献したいと思ってます。残念ながら会には出席できません。盛会を祈念しております。

●酒井 徹（昭和54年卒・新29回）

日本発条(株)という自動車向けばね会社で、化学の業務に30年従事して来ました。今は新テーマ探索を主業務としており、この件で応化の先輩、後進の方々にお世話になることがあります。宜しく申し上げます。私生活では、40才から始めた剣道を続けています。今の目標は11月の四段審査に合格することです。

●新藤 隆彦（昭和55年卒・新30回）

6月より大阪に転勤となります。リスクマネジメントの仕事をするようになります。

●石川 厚史（昭和55年卒・新30回）

世の中、リーマンショックのように思いもかけないことがおこってしまっていますが、おこるときは悪いことばかりのように感じるのは、

私だけでしょうか。

●長山 博（昭和55年卒・新30回）

2009年3月 退職しました。

●山下 明泰（昭和55年卒・新30回）

大学の教職についています。遂に「ゆとり教育」の一期生が研究室に配属されました。同時に多くの私立大学は生き残りをかけて定員の確保も大きな問題になっています。私立大学で「質」と「量」の両方を満足できるのは、早稲田など一部に限られることを毎日実感しています。

新制卒業生(31回～40回)

●岡部 正明（昭和58年卒・新33回）

今年の3月末に博士(工学)を取得しました。諸般の事情で母校での取得ではありませんが、早稲田で学んだことがあってこそのものでした。諸先輩方に感謝すると共に、これからは頑張りたいと思います。

●濱田 和人（昭和59年卒・新34回）

ご無沙汰しております。残念ながら総会等には参加できませんが、総会のご成功を祈願しております。

●貝沼 雅人（昭和59年卒・新34回）

4月より総務部へ異動となり、会社運営のすべてにかかわる事となりました。

●水間 啓（昭和59年卒・新34回）

昨年7月をもって、東洋製罐(株)を退職致しました。

●望月 精一（昭和60年卒・新35回）

遠方におりますため、参加できず残念です。医療従事者を目指す学生達と頑張っております。

●林 達也（昭和60年卒・新35回）

三菱樹脂本社にて、新規フィルム事業の開発を行っております。

●Abrahamsen 佐野 聡美（昭和60年卒・新35回）

渡米して早や十年。娘は九月から高校生。起業し社長となるも昨今の不況でノンビリ稼動。趣味(Jazzercise、Zumba、ピアノ、空手、料理、ソフトボール)に大忙しの毎日です。

●堀井 正明（昭和61年卒・新36回）

2009年4月から週刊朝日で仕事をしてます。

●松村 好章（昭和61年卒・新36回）

元気にやっております。本社勤務になりました。

- 広渡 祐史**（昭和61年卒・新36回）
生活習慣病に関する検査の研究開発を進めています。みなさん、健康には気をつけましょう。
- 相田 冬樹**（昭和61年卒・新36回）
卒業して20年になりますが、10回以上の人事異動を経験し、この4月より研究職になりました。まだまだ化学を勉強しつづけています。
- 古川 直樹**（昭和61年卒・新36回）
本年3月に、工場に転勤になりました。新たな職場で、現場、現物、そして、多くの人材と関わりながら日々勉強の毎日を過ごしています。
- 中川 知哉**（昭和62年卒・新37回）
小松救難隊長としてまた現役のパイロットに復帰し、石川県の空を飛んでいます。P.S.「空へ」という映画の舞台です。
- 田坂 東**（昭和62年卒・新37回）
2009年4月1日から1年間、NHK教育TVの「ど〜する？地球のあした」（子供向け環境問題番組）に寄せられる質問の回答者を担当しております。
- 古谷 敦志**（昭和63年卒・新38回）
昨年から石炭関連のプロジェクトで月の半分程度はインドネシアに行っています。
- 津田 研史**（平成元年卒・新39回）
ドイツ勤務中
- 徳田 幸紀**（平成元年卒・新39回）
また機会を見つけ早桜会へも出席させていただきます。

新制卒業生(41回～)

- 杉本 伸之**（平成3年卒・新41回）
2008年12月にシンガポールから帰国しました。
- 福田 誠**（平成3年卒・新41回）
学部の完成年次をむかえて、試行錯誤の連続です。新しいことにも少しずつトライし、この仕事の醍醐味も感じています。厳しくもあります。
- 今井 賢樹**（平成6年卒・新44回）
2007.7.16の中越沖地震以来、全台止まっていた柏崎刈羽原子力発電所の7号機が先日ようやく発電を再開いたしました。今後も残りの6台の発電再開に向けてがんばっていき

たいと思います。

- 木村 勝己**（平成7年卒・新45回）
理系の研究の仕事とは離れて、証券会社にて、企業のファイナンスのサポートをしています。また、関西の寺巡りも休暇を見つけて精力的に行っています。
- 織 郁子**（平成12年卒・新50回）
今年の2月に入籍しました。
- 山内 悠輔**（平成15年卒・新53回）
最近、応化会が活発になって良いと思います。ますます活発になること、期待しております。
- 池内 宏**（平成19年卒・新57回）
今夏に住所が変更します。（独立） まだ未定なので、決定次第連絡致します。

大修修了生

- 宇佐美 盛爾**（昭和30年修・大03回）
中国への事業展開についてご依頼が急増しましたが、老躯に鞭打っております。
- 横田 昌明**（昭和54年修・大27回）
早稲田に医学部を！

様々な分野で活躍する卒業生①

桑田 哲郎さん(新制46回卒 1996年学部卒 平沢研)

現：日本航空(株) パイロット



平沢先生のお世話になり、応用化学科を卒業しましたのが1996年。日本航空に入社してから13年の月日が経つのかと考えますと、時の流れのはやさを実感致します。入社してからの13年はあっという間でした。私は入社後、一から訓練を受け運航乗務員、つまりパイロットになりました。大多数の皆さんは、パイロットとはまったく接点がない、自分には無理だ、と思っておられると思います。私もそう思っていました。しかしながら、決してそうではないということ、入社後の経緯とともにここで簡潔に紹介致します。

まず、日本航空に入社して10ヶ月間、私は羽田空港での業務、いわゆる地上研修を行いました。お客さまが飛行機に乗られる際のチェックイン業務、搭乗ゲートのご案内等々、空港における業務です。これは一見、パイロットとはまったく関係ない業務と思われるかもしれませんが、飛行機の運航の流れを理解するのに非常に有益な時間となります。また、社内における他職種の仲間を増やすのには絶好のチャンスでもありました。最近当社では羽田空港、成田空港のみでなく、札幌、大阪、那覇等の空港でもこういった地上研修を行っています。

地上研修が終わりますといよいよパイロットに向けた訓練がはじまります。飛行機とは全く関係ない応用化学科出身の私ですが、同期の専攻も、法律、経済、機械等々と多岐にわたります。つまり私と同じく操縦に関しては完全に「素人」なのです。一から飛行機について学び、資格、免許を取得していきませんが、学ぶ科目は飛行機の構造、航空力学、エンジン、航空法、気象などと広範囲に及び、とても一人だけでは追いつきません。同期で得意分野を教え合いながら、協力しての勉強になります。そして無事に国家試験をパスしますと、ようやく実機での訓練を行うべくアメリカ、サンフランシスコ近郊のナパという小さな町へ赴任します。

ここで飛行機とは無縁だった生活から一転、

飛行機漬けの日々になります。飛行機と言っても小型の単発機ですが基本は大型機と同じです。壁に貼ってあるコックピットの写真に向かってのイメージトレーニングとフライトレッスンの日々。今まであまり飛行機に乗った事も無い生活からすると大きな変化です。最初はもちろん教官と一緒に飛ぶレッスンが続きますが、飛び始めて約二ヶ月で教官のいないフライト、つまりソロフライトにも出るようになります。隣を見ればいつもいて、どこか頼りにしていた教官がいないのです。初めて「自分一人で飛行機を飛ばしている！」という実感がわいてきた時の感動は今でも忘れられません。ただし、機材トラブル、天候の急変、何が起っても自分一人で対応し、着陸しなければなりませんので、緊張もしました。

このナパでの実機訓練が始まるとあっという間に日々は過ぎていきます。一つの目標に到達したら、次に一段と高い目標を掲げられ、全力でその目標に向かって努力して行く日々です。その中で、仲間の同期と力を合わせ、それぞれの能力、技術を向上させていきます。結果がでない時は辛いですが、初めてのソロフライトの感動や、試験に合格した時の喜びは、その辛い思いを忘れさせてしまうくらい大きなものです。これらの喜びを仲間と共有出来ますので喜びは更に倍増です。ナパでは辛かった記憶よりも、楽しく充実した記憶の方がたくさんあります。また、サンフランシスコの近くと言う場所ですので、週末は車でダウントウンに出て買い物をしたり、同期で御飯を食べたり、寮でお酒を飲んだりしてストレス発散をしておりました。また、カリフォルニアは自然環境もすばらしく、ヨセミテ国立公園でハイキング、海でサーフィンも可能です。ゴルフをここで始める人が多かったようにも思われます。が、もちろん訓練に支障のない範囲での話です。

約2年間のナパでの訓練が終了しますと、東京へ戻り、いよいよ大型機での訓練になりま

す。まずはシミュレーターで大型機の基本操作から緊急事態への対応を覚え、次に実際の旅客便に使用しております飛行機を下地島という沖縄の島に持っていき、実機で離着陸の操縦感覚を身につけます。この島には定期便は就航しておりませんので皆さんにはあまり馴染みが無いかもしれませんが、ここにはなんと羽田空港と同じ3000メートルの滑走路があり、パイロットの間では思い入れの深い場所となっています。ここで大型機のタッチアンドゴーなどの離着陸訓練を行います。初めて大型機を操縦した時は、大きな感動を得るとともに責任の重さも実感しました。全ての訓練が終了し、審査に合格し、社内で認定されてようやく、副操縦士となります。訓練は約4年。一口に4年と言えませんが、日々新しい発見があり、厳しい訓練の中での人間関係は強固なものとなりますので、非常に充実した4年間になることは間違いありません。

現在、私はボーイング767という飛行機に副操縦士として乗務しております。乗務路線は国内、国際区別無く両方に乗務しており、具体的には国内、中国、東南アジア、そしてハワイ等にフライトしております。仕事の責任は重いですが、その土地の風土に触れ、また、おいしいものを食べるのが出先での楽しみとなっております。パイロットという仕事は、お客さまを安全に目的地にお届けするために、まず天気という自然、航空機という機械が相手です。天気は決して人間の思い通りにはなりませんし、航空機も機械である以上、常に故障というリスクを持っています。従いまして、常に気象の変化や、航空機の故障を想定しておくことが大切です。また、客室乗務員、地上スタッフ等の人間を相手にしての仕事でもありますので、それぞれの方達と円滑なコミュニケーションがとれることも大変重要です。副操縦士の私は日々、安全運航を目指し、自分も機長となるべく経験を積み、学んでおります。各フライトが終わると他の職業では味わう事の出来ない充実感、達成感を感じることが出来ます。

これから就職活動が控えていらっしゃる後輩の皆さん。この様に私もパイロットとは全く関係ない応用化学科出身ですが、会社にて一から訓練を受ける事により、副操縦士になりました。出身の学部、学科は全く関係ありません。ま



た、最近は身体検査基準も緩和され、裸眼視力は問われません。チャンスは平等にあります。もし、皆さんの中に、少しでも興味を持たれた方がいらっしゃいましたら、是非挑戦してみてください。

様々な分野で活躍する卒業生②



@2009.08.16

川村 容子さん(新制56回卒)



平沢泉先生

ご無沙汰しております。モルドバ支援の川村容子です。

平沢先生、お元気でいらっしゃいますか？

おかげさまで、私の方は、元気に過ごしています。

さて、このたび、様々な大変ありがたいご縁に恵まれ、今月26日よりルーマニアのヤシ（IASI）という文化都市に1～2年間留学することになりました。

IASIはモルドバ共和国と歴史的・文化的に関係の深い都市です。

色々考えましたが、どんな仕事に就くにせよ、なんらかの形でモルドバの復興に関わっていきたく、ルーマニア語とその文化を学ぶ必要性を感じ、決断しました。

今年、早稲田の教育学研究科の博士課程に進学したのですが、休学し、現地の Alexandru Ioan Cuza大学文学部設置の留学生のための語学・文化講座に聴講生として行きます。

現地の方のご助力で、ルーマニアで日本語を教えるバイトまでもあてがっていただけそうです。さらに、ありがたくも、修士課程の時に貸与していた日本学生支援機構の奨学金が全額返済免除になりました。留学を考え、手をつけずに貯金してあったので、この奨学金を留学資金にあてることができそうです。

ここまで来ることができたのも、平沢先生を始めとした多くの先生方が理工時代に私が自分の道を選ぶことを応援してくださり、その後も温かく見守ってくださったからこそ思っています。

ほんとうに感謝しています。

どのような形でこのご恩をアウトプットできるか、まだ明確には分かりませんが、なんらかの形で日本とモルドバの社会に貢献していきたいと思っています。

暑い日が続きますが、どうぞお体に気をつけてお過ごしください。

ご報告まで。

P.S. 6月の下見の際にIASIの小学校で撮った写真を送ります。

川村容子



新入生オリエンテーション2009

(応化会ホームページより)

本年度、140名という例年に比べればやや少ない新入生を迎え入れた応用化学科。これからの大学生活について期待や不安を抱く新入生に、先生方や先輩学生からの交流を図る場であり、友人の輪が広がる機会を提供する場、それが新入生オリエンテーションである。

応用化学科学生委員会は、今年度の一年生の担任である細川先生・関根先生のご指導のもと、会議や先生方へのインタビュー等を行い、準備を進めてきた。昨年までの反省点を踏まえつつ、新入生により楽しんでもらうことを目指した今回のオリエンテーションを振り返らせていただきたいと思います。

~~~~~

## スケジュール

### 【第1日目 4月30日(木)】

- 9:00 52-101集合
- 9:30 西早稲田キャンパス発
- 13:00 昼食
- 13:30 応化ガイダンス
- 15:00 GM1顔合わせ
- 15:30 GM1
- 18:00 夕食
- 19:00 入浴・自由時間
- 20:00 GM2
- 21:00 自由時間・就寝

### 【第2日目 5月1日(金)】

- 6:30 起床
- 7:30 朝食・部屋清掃、荷物整理
- 8:20 スポーツ会
- 12:30 出発
- 13:00 おぎのやにて昼食
- 17:00 西早稲田キャンパス着

~~~~~

第一日 4月30日(木)

オリエンテーション初日。新入生が西早稲田キャンパスに集合し、出発前に簡単なガイダンスを行った後、軽井沢セミナーハウスへ出発した。

軽井沢セミナーハウスに到着し、昼食を済ませた後、先生方によるガイダンスを行った。応用化学科のカリキュラムなど、今後の大学生活において重要な事柄の説明が行われ、新入生は興味津々に話に聞き入っている様子であった。

その後、先生方やその助手の方々と新入生との交流を図るグループミーティング1 (GM1)が行われた。一グループ6人程度の新入生に対し先生一人が接し、授業ではなかなか聞く機会のない先生方の研究や大学生活についての貴重なお話をしていただいた。新入生にとって、普段遠い存在に感じられる先生方との交流は大変有意義であったと思う。

また、天気が良かったこともあり、新入生同士でサッカーやバドミントンなどを楽しんでいた。

夕食の後、今度は学生委員や先輩学生と新入生との交流を図るグループミーティング2 (GM2)が行われた。GM1同様少人数のグループで行い、授業やアルバイト・サークルといった私生活のことなど、応用化学科の先輩がどのように学生生活を送ってきたのかを話題にし、多くの新入生が抱えているであろう不安や疑問を解消する目的で行った。先輩学生から見た大学生活を知ることができ、GM1とは異なる充実感が得られたのではないかとと思う。



GM1の空き時間でスポーツを楽しむ新入生



先生の生のお話を聞く機会となったGM1



夕食後のグループミーティング (GM2)

第二日 5月1日(金)

二日目は、昨年と違い天候が崩れることはなく、予定されていた通りスポーツ大会を行うことができた。今回は、事前に学生委員で話し合いを重ね、新入生全体で一体感が得られるような企画を練った。例年では球技大会を行い、いくつかの種目ごとに新入生を分けていたが、今年は全員が同じ種目を行うことにし、検討した結果大縄飛び・リレー・綱引きという三つの種目を行うことにした。



朝食後、グラウンドに集合した新入生を10チームに分け、まず始めに大縄飛びを行った。大縄飛びでは、事前に予想していた以上に新入生の息は合っ

おり、どのチームも一致団結して取り組む姿が印象的だった。

リレーは、ただコース上を走るだけでなく、バットで回った後に走る、紙に書いてあるものを探す、といった障害物も用意した。運動が好きな人もそうではない人もとても楽しんでいるようであった。また、全力疾走している姿を見て「がんばれー!」という声援が起こり、グラウンド全体で盛り上がる事ができた。



最後に綱引きを行ったが、今年は時間短縮のため綱を二本にして行った。また、10チームをトーナメントにし、負けた場合でも再び試合ができるよう配慮した。さらに、最後まで勝ち残ったチームは先生方や先輩学生で作られたチームと対戦した。

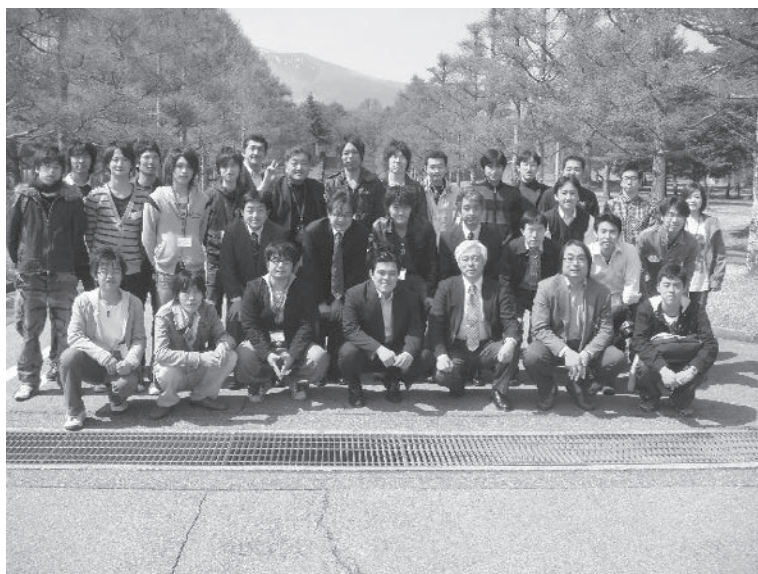
先生方や先輩学生のご協力もあって、スポーツ大会は白熱したものになり、また新入生からも楽しかったという声が多く聞かれた。スポーツ大会で得られた一体感をぜひ忘れずに、これからの大学生活を送ってほしい。

その後、おぎのやまで移動し昼食をとり、西早稲田キャンパスにて解散となった。

オリエンテーションを通じて、新入生同士の仲が深められたようで、また応用化学科がどのような学科なのか少なからず知ることができ、充実した二日間であったと思う。この機会に知り合った友人を大切に、これからの大学生活を共に歩いていくことを願っている。

また、教授や助手の方々をはじめ、先輩学生・学生委員など、オリエンテーションにご協力くださった方々に御礼申し上げます。様々な方々のお力添えがあり、オリエンテーションを無事行うことが出来たと痛感しております。本当に有難うございました。

(応用化学科学生委員会 塚田洋之)



2008年度版会員名簿の頒布

2008年度版会員名簿を本年1月に発行しましたが、残部が350部程度あります。広告なしかつページ数大幅増加にかかわらず、頒布価格は、正会員1,000円(前は4,000円、予約は3,500円)、学生会員は希望者のみ800円としており、当然応化会も一部負担しています。

希望者は、電話・ファックス・電子メールで事務局へご連絡いただくか、応化会ホームページからお申し込みください。

個人情報保護の基本方針と細則についての補足

会員から文書による個人情報の利用停止の請求があった場合は、次の取り扱いとします。希望の場合は事務局にその旨、郵便・ファックス・電子メールのいずれかでご連絡ください。

1. 会員名簿への掲載の停止

会員名簿には、会員種別・卒業年次・卒業研究室名・氏名(旧姓を含む)・自宅現住所・自宅電話番号・勤務先名称・勤務先所属・勤務先電話番号が掲載されますが、会員種別・卒業年次・氏名以外の全部または一部の掲載を停止します。

2. 他の会員への開示または提供の停止

他の会員からの照会に対して、名簿掲載内容以外の個人情報(電子メールアドレスが該当)の開示または提供を停止します。

「会費自動支払制度」登録のお願い

皆様には日頃より応用化学会の運営につきご協力賜り厚く御礼申し上げます。

皆様方には応化会の会費をお納め頂いていることご高承の通りですが、会費納入に際し「会費自動支払制度」をご利用頂くと、会費納入に際し郵便局へお出かけ頂く必要もなく、かつ年会費が2,850円となります。この際の「会費自動支払制度」への登録をお願い致します。本制度の特徴は以下の通りです。

(1) 毎年4月18日に自動的に指定口座から引落としとなります。

(2) 全国の都市銀行、主要な地方銀行、信託銀行及び全国郵便局等の口座から自動支払が利用頂けます。

(3) 本制度をご利用頂いた場合には、年会費は2,850円となります。

尚、手続きについては、事務局までご連絡下さい。

応用化学会ホームページ「お問い合わせ」(会費納付)から資料請求も出来ます。

応用化学会事務局

TEL: 03-3209-3211 (内5253)

FAX: 03-5286-3892

Eメール: oukakai@kurenai.waseda.jp

ホームページ: <http://www.waseda-oukakai.gr.jp>

逝去者リスト

芦野 泉殿 (旧16回卒) 2009年1月12日
小阪直太郎殿 (旧20回卒) 2009年2月17日
杉野 恒雄殿 (旧22回卒) 2009年4月4日
河本 敏尚殿 (旧25回卒) 逝去日不明
片岡 雅志殿 (旧27回卒) 2007年3月22日
中村俊太郎殿 (旧31回卒) 2008年6月
田中 宏殿 (燃02回卒) 2009年5月19日
濱田 盛重殿 (燃03回卒) 逝去日不明
鈴木 茂雄殿 (工05回卒) 2008年8月3日

内田 昭二殿 (新01回卒) 2009年3月8日
小田村五郎殿 (新01回卒) 2007年12月22日
佐藤 幹雄殿 (新01回卒) 1994年7月2日
大野 昭殿 (新03回卒) 2009年1月24日
土屋 一郎殿 (新03回卒) 逝去日不明
榎本 敬三殿 (新07回卒) 2008年11月26日
佐々木幹幸殿 (新07回卒) 2009年3月16日
福原 洋一殿 (新07回卒) 2009年7月16日
君塚 洋司殿 (新16回卒) 2008年7月7日

●2009年秋号編集後記

1989年、今から20年前の話をしたいと思います。国際情勢に疎い筆者がそれでも世界の動きに(少しは)目を向けるようになったきっかけとなった海外出張中の出来事で、1990年に東西ドイツの統合が起こる、その前年の話です。前説としては、当時はソビエト連邦が健在の時代です。1986年にチェルノブイリ原子力発電所の事故(現在のウクライナ)がありましたが、東西冷戦の終了など夢のまた夢と思われていました。

筆者の国際学会への初参加は29歳のとき、専任講師になった1989年のことです。9月14～16日に開催された微生物のセルラーゼに関する国際シンポジウム「TRICEL89」に参加するため、恩師の宇佐美先生に同行してオーストリアのウィーンに向かいました。エアロフロートを利用した渡航に関するあれこれやウィーン工科大学を会場とするシンポジウムについての思い出も多いのですが本稿では省略します。

現地では、日本企業のウィーン支社におられた田口氏(早大・教育学部卒)にお世話になりました。市内をはじめウィーンの要所、オペラハウスや市庁舎、映画「第三の男」で有名な大観覧車のある遊園地付近、ぶどう畑とともにホイリゲ(自家製ワインの居酒屋兼レストラン)の多い地域などを運転手付の自動車案内していただきました。初めて見た中欧、芸術の都ウィーンの街並みを眺めながらの楽しい思い出が記憶に残っています。

その折に、西欧と東欧の接点に当たるオーストリア(ウィーン)は情報分析の要所であること、だからこそソビエト連邦の東欧圏への支配力が確実に低下していることが明快にわかることを教えてもらいました。さらに、ドイツで起こったピクニック事件のことも伺いました。当時は行き来が許されなかった東ドイツと西ドイツの国境に両国の人々(民間人)数百人がピクニックと称して集まり(1988年)、1989年にはさらに「一歩だけ相手の国に足を入れてみる」ことを実行した、というものです。この2回のピクニックを企画したのはオーストリア在住のハプスブルグ家の末裔なのだそうです。また、当時のローマ教皇はヨハネ・パウロ2世でしたが、ポーランド出身の教皇の存在はローマ教皇庁が東西ドイツの統一を含めて東欧圏の解放を望んでいることの意味表示で、必ず世界はその方向に進むとの見立ても披露していただきました。世界史も地理もさっぱりな筆者でしたが、ヨーロッパでは中世からの歴史が脈々と生きていること、意味ありげな人物が今もうごめき何らかの役割を演じていることが突然理解できた瞬間でした。

日本の新聞やテレビの報道からは全く予想できなかったことが、今ヨーロッパで起こりつつある！ヨーロッパで何かが胎動しており、それが大きな流れとなっていく兆候が、世界情勢に疎い筆者にすら確実に予感されたのです。

日本に帰国して、同年11月9日にはベルリンの壁崩壊のニュースに接しました。冒頭に述べたように、翌年の1990年には東西ドイツの統合が起こり、1991年にはソビエト連邦が消滅します。まさに歴史の急展開です。1989年の9月にウィーンで感じた徴候が、たしかに大きな流れとなり実現していくことを確認していったような気持ちになったものです。つい最近(2009年5月～9月)、テレビや衛星放送でドイツ統合に関する検証ドキュメンタリー番組(複数)を見ましたが、それらの中ではピクニック事件のことは紹介されていませんでした。逆説的には、東西ドイツ統合をはじめあの時機にヨーロッパで起こった事柄には表面的にも水面下でも種々のはたらきかけがあり、社会全体に機運が高まって、それが臨界点に到達して起こったことと理解できました。

あれから20年。自分自身の感覚や体験を通して何かを掴むことの重要性について反芻しているところです。また、思わぬ方々から重要な話を聞けることがあり、だからこそ人々との出会いが重要なのだとも考えています。前述の田口氏とは、文字通り一期一会、ウィーン滞在時一回だけの親交となりましたが、強い印象が残っており今でも心から感謝しています。

応用化学科の卒業生や在学生、とくに若い世代の方々には、研究面でもそれ以外のところでも、人々との出会いを大切にしてほしいと願っています。人生の転機はきっと素晴らしい出会いによって起こることと思うからです。2009年という今年も、実は大きな転換点なのかもしれません。

本号では、応用化学会総会や受賞記念、講演会の記事など盛りだくさんの内容となっています。「若手の頭脳(研究紹介)」「今ここで頑張っています」「伝統の逸品」をはじめ各種コーナーの記事も充実しています。これらの原稿内容からも早稲田応用化学会の新しい息吹が聞こえてくるようで、気分的には「2010年宇宙の旅(A. C. クラーク著)」に向けて早稲田応用化学会の展開に大いに期待しています。

(追記)

早稲田応用化学会報2007年秋号(No. 76)の「伝統の逸品」に寄稿していただいた元帥酒造(<http://www.gensui.jp>)が、本年3月の鳥取県新酒鑑評会で第一位の県知事賞、5月の全国新酒鑑評会で金賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

(桐村 光太郎)

早稲田応用化学会報

通算80号 2009年 11月 発行

編集兼発行人 相馬 威宣・桐村 光太郎

発行所 早稲田応用化学会

印刷所 大日本印刷（株）

〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学先進理工学部内

TEL (03) 3209-3211内線5253 Fax (03) 5286-3892

郵便振替00190-4-62921

E-mail: oukakai@kurenai.waseda.jp

<http://www.waseda-oukakai.gr.jp>

伝統の逸品

350年の伝統の味が世界へ、 そして 宇宙味噌 まで

1662年、宮坂醸造の前身は、信州上諏訪(長野県諏訪市)で酒造業として始まりました。現在は酒蔵を諏訪市、富士見市に持ち、清酒"真澄"を醸しだしております。また、永年培われた発酵技術を味噌にも応用し、1916年(大正5年)、諏訪市に味噌工場(丸高工場)を設立しました。これが神州一味味噌の始まりです。その後、味噌工場として、甲府工場、上野原工場(山梨県)、中国工場(山東省来陽市)を設立し、凍結乾燥工場として東久留米工場(東京都)を設立し現在に至っております。なお、丸高工場は神州一発祥の地として、工場の一部を味噌ショップ、みそ茶屋に作り変え、お客様をお待ちしております。

長い伝統の基、当社はその時代時代に合う味噌を追求し、ひたすら技術を磨いてきました。1963年に発売されたビタミンいり「み子ちゃん印」は、定番の味噌として今なお愛され続けており、塩分が気になる方への「無添加減塩」は大好評。すべて国産原料を使用し、十分に熟成をさせた「信濃路」、「甲斐路」は最高級味噌として、こだわりの方々へ提供させて頂いております。

清酒において大吟醸酒「夢殿」は全国新酒鑑評会で6年連続金賞受賞、味噌は全国味噌鑑評会で2007年、2008年と2年連続農林水産大臣賞を受賞したのも、麹や酵母という微生物の性質を熟知し、その勝手を許さない伝統の技術の表



丸高蔵

れです。「味噌造りは子育てと同じ」とは、経験から出た丸高工場の杜氏の弁です。

そんな宮坂醸造の味噌製品は現在世界40数カ国に輸出されています。米国、オーストラリアはもとより、アジア各国、イギリス、フランス、イタリア、そしてロシアなどヨーロッパ各国で味噌汁が現地の人に飲まれているのは、日本食、いや味噌が確実に市民権を取得している表れです。

そんな中、350周年に向けて新たな伝説を作ろうとしているのが、「宇宙味噌」です。正確には、宇宙で保存された大豆で味噌を作るというものです。現在国際宇宙ステーションには、日本産の大豆100粒が打ち上げられており、来春帰還します。その後は小、中学校においての植物栽培学習に利用されますが、3年後にはそれで味噌を作ることを計画しています。宇宙を体験した大豆から日本伝統の食材がつくられ、自給率が5%しかない国産大豆の自給率アップにつながればよいと長い目で期待しています。これも「地産地消の応援!」、「国産大豆応援!」を旗印にした活動の一つです。大豆を提供してくれた地元の農家や高校生・小学生、ひいては日本人の夢を乗せた味噌は、どんな味がするのでしょうか。そのときにはぜひ皆さんに味わってもらいたいと願っています。

(宮坂 勇一郎)



食卓に、おいしさと感動を

神州一味味噌

創業1662年・宮坂醸造

宮坂醸造株式会社

代表取締役社長 宮坂勇一郎(新制26回卒)

〒165-0027 東京都中野区野方2-4-5

電話03-3385-8008 F A X 03-3375-3838

味噌 ホームページ <http://www.miyasaka-jozo.com/>

酒 ホームページ <http://www.masumi.co.jp>



み子ちゃん大豆 宇宙へ



早稲田応用化学会

The Society of Applied Chemistry of Waseda University

E-mail: oukakai@kurenai.waseda.jp

ホームページ: <http://www.waseda-oukakai.gr.jp>